

米に関するマンスリーレポート

(平成26年3月7日公表)

【お知らせ】

※ 今回の米政策の見直しでは、生産者や集荷業者・団体が主体的な経営判断や販売戦略に基づき、需要に応じた米生産が出来るよう環境整備を進めることとしており、その一環として、国による、よりきめ細かい需給・価格情報、販売進捗・在庫情報等の提供等を行うこととしています。

このため次号から、現在掲載している情報に加え、「都道府県ごとの民間在庫の推移」や「都道府県及び主要銘柄の契約・販売情報」等を新たに追加掲載する予定です。

【本資料の目的】

「米に関するマンスリーレポート」は、米に関する価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

1. 「米に関するマンスリーレポート」は、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあります。
2. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
3. 本資料に関する問い合わせ先

生産局農産部農産企画課 担当者：岩井、村松、川口 代表：03-3502-8111（内線4975） ダイヤルイン：03-6738-8973 FAX：03-6738-8976

目 次

I	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成26年2月）	1
II	集出荷・卸段階の動向	
	（1）相対取引価格・数量	6
	① 相対取引価格（主な産地銘柄別、平成26年1月）	
	② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成25年産米）	
	③ 相対取引価格（年産別）	
	④ 相対取引数量（累積数量、主な産地銘柄別、平成26年1月）	
	（2）民間在庫の推移	9
	① 出荷段階	
	② 販売段階	
	（3）米の先物取引価格の推移	11
	（4）業者間取引の状況	12
	① 日本コメ市場（随時取引の結果）	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）	
	（5）(株)加工用米取引センターの取引結果	13
III	小売・消費段階の動向	
	（1）消費者物価指数の推移	14
	（2）小売物価統計の推移	15
	（3）小売価格の推移（POSデータ）	16
	（4）購入数量の推移（家計調査）	17
	（5）米の消費動向（米穀機構による調査）	18
IV	生産段階の動向	
	（1）平成25年産水陸稲の収穫量	21
	（2）国産米（水稻）の作況・収穫量	25
	（3）水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量及び10a当たり収量	25
	（4）加工用米及び新規需要米の取組状況	27
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	（5）水稻うるち玄米の検査結果	28
	① 検査数量及び等級比率（年産別）	
	② 水稻うるち玄米の1等比率の推移	
V	主食用米等の需給見通し（平成25年11月の米の基本指針）	
	（1）民間流通における6月末在庫の推移	29
	（2）主食用米等の需要実績の推移	29
	（3）平成25年7月から平成26年6月の主食用米等の需給見通し（推計）	30
	（4）平成26年産米の生産数量目標（全国）	30
VI	備蓄米及びMA米の動向	
	（1）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量	31
	① 平成26年産政府備蓄米の都道府県別優先枠及び買入入札の結果	
	② 平成23～25年産備蓄米の政府買入入札の結果	
	③ 国内産備蓄米の売渡数量	
	④ 政府備蓄米の在庫の状況	
	（2）MA米（一般・SBS）の動向	34
	① MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	
	② 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果（平成25年度）	
	③ SBS輸入米の見積合わせ結果（平成25年度）	

I 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成26年2月)

〔○ 米取引関係者に対して、需給動向や価格水準などの取引動向に関するアンケートを実施し、その結果をDIとして算出したものである(詳細はP5)を参照。〕

1. 国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

①主食用米の需給動向

(ア) 現状判断DI

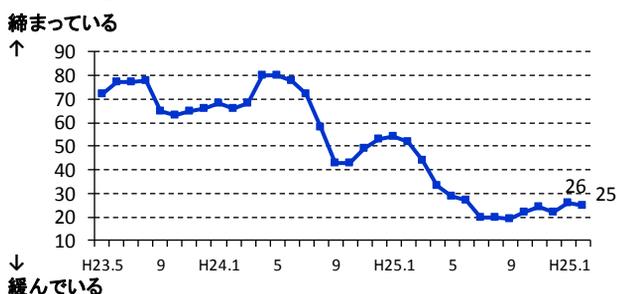
前月からの増減 -1 (今月の数値 25)

(イ) 見通し判断DI(向こう3ヶ月)

前月からの増減 -1 (今月の数値 29)

〔※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示す。〕

①-ア 国内の主食用米の”現在の需給動向”について、どう考えていますか。(全体)



①-イ 国内の主食用米の”向こう3ヶ月の需給動向”について、どうなると考えていますか。(全体)



②主食用米の米価水準

(ア) 現状判断DI

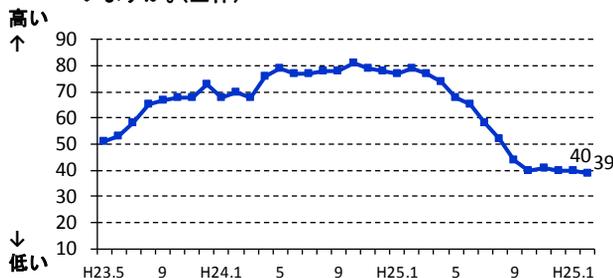
前月からの増減 -1 (今月の数値 39)

(イ) 見通し判断DI(向こう3ヶ月)

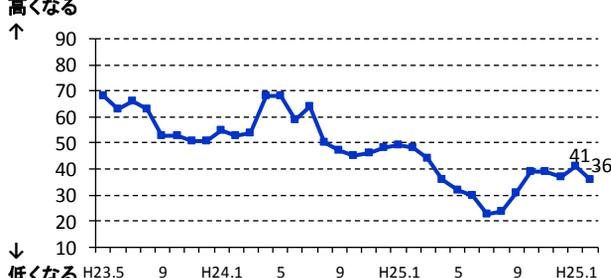
前月からの増減 -5 (今月の数値 36)

〔※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。〕

②-ア 国内の主食用米の”現在の米価水準”について、どう考えていますか。(全体)



②-イ 国内の主食用米の”向こう3ヶ月の米価水準”について、”現時点と比較”してどうなると考えていますか。(全体)



③ 取引関係者が①及び②の判断を行うに当たり、主に考慮した要因

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	米穀の調達状況	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H25.3	1%	20%	6%	47%	16%	6%	4%
H25.4	2%	20%	3%	46%	18%	7%	4%
H25.5	1%	28%	3%	48%	9%	9%	2%
H25.6	1%	32%	3%	46%	8%	10%	1%
H25.7	2%	36%	4%	39%	11%	6%	2%
H25.8	10%	39%	1%	37%	6%	5%	3%

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	米穀の調達状況	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H25.9	8%	38%	2%	35%	8%	6%	3%
H25.10	7%	35%	3%	37%	10%	5%	3%
H25.11	2%	30%	6%	36%	17%	7%	2%
H25.12	3%	33%	6%	39%	8%	9%	3%
H26.1	2%	32%	5%	42%	9%	9%	2%
H26.2	1%	33%	3%	39%	16%	7%	2%

2. 自社の取引状況に関する判断(業態毎)

①主食用米の販売数量

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「増えた」/「(将来)増える」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「減った」/「(将来)減る」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の販売数量に関する現状判断 D I

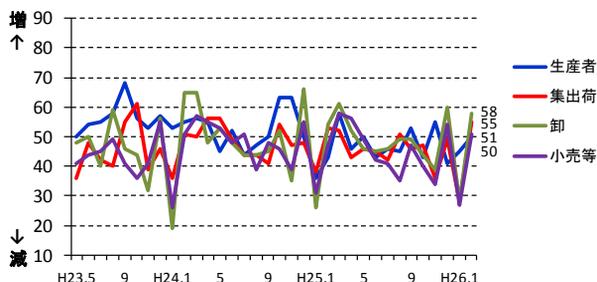
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	+ 5	(今月の数値	5 0)
集出荷：前月からの増減	+ 2 7	(今月の数値	5 5)
卸：前月からの増減	+ 3 0	(今月の数値	5 8)
小売等：前月からの増減	+ 2 4	(今月の数値	5 1)

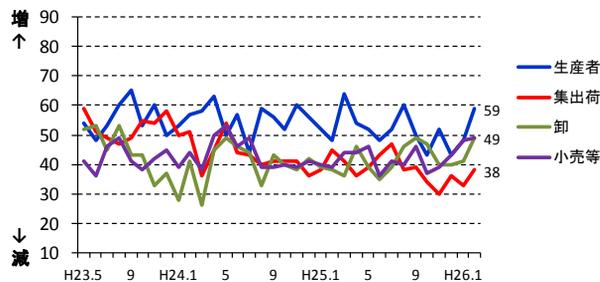
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+ 1 1	(今月の数値	5 9)
集出荷：前月からの増減	+ 5	(今月の数値	3 8)
卸：前月からの増減	+ 8	(今月の数値	4 9)
小売等：前月からの増減	+ 1	(今月の数値	4 9)

①-ア-a 貴社の“今月”の主食用米の“販売数量”について、“先月と比較”するといかがですか。



①-ア-b 貴社の“今月”の主食用米の“販売数量”について、“前年同月と比較”するといかがですか。



(イ) 来月の販売数量に関する見通し D I

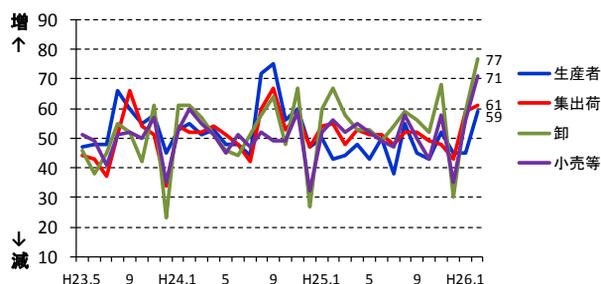
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	+ 1 4	(今月の数値	5 9)
集出荷：前月からの増減	+ 2	(今月の数値	6 1)
卸：前月からの増減	+ 1 8	(今月の数値	7 7)
小売等：前月からの増減	+ 1 5	(今月の数値	7 1)

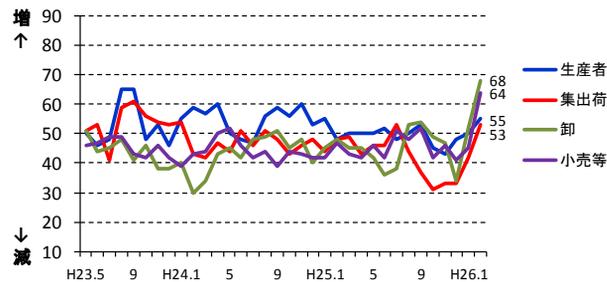
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+ 5	(今月の数値	5 5)
集出荷：前月からの増減	+ 1 1	(今月の数値	5 3)
卸：前月からの増減	+ 1 6	(今月の数値	6 8)
小売等：前月からの増減	+ 1 9	(今月の数値	6 4)

①-イ-a 貴社の“来月”の主食用米の“販売数量”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



①-イ-b 貴社の“来月”の主食用米の“販売数量”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



②主食用米の価格

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「高くなった」/「(将来)高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「低くなった」/「(将来)低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の価格に関する現状判断 D I

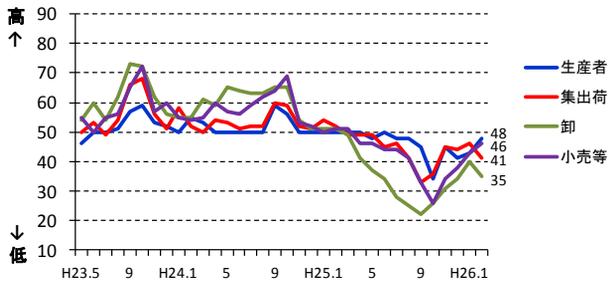
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	+5	(今月の数値	48)
集出荷：前月からの増減	-5	(今月の数値	41)
卸：前月からの増減	-5	(今月の数値	35)
小売等：前月からの増減	+3	(今月の数値	46)

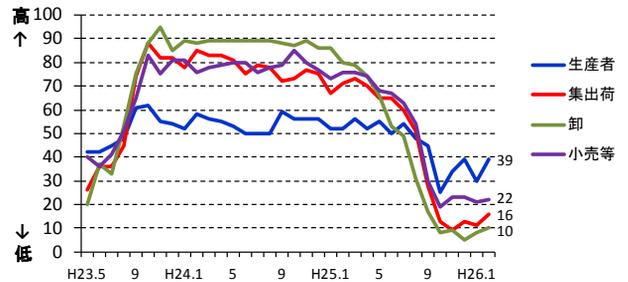
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+9	(今月の数値	39)
集出荷：前月からの増減	+5	(今月の数値	16)
卸：前月からの増減	+2	(今月の数値	10)
小売等：前月からの増減	+1	(今月の数値	22)

②-ア-a 貴社の“今月”の主食用米の“価格”について、“先月と比較”するといかがですか。



②-ア-b 貴社の“今月”の主食用米の“価格”について、“前年同月と比較”するといかがですか。



(イ) 来月の価格に関する見通し D I

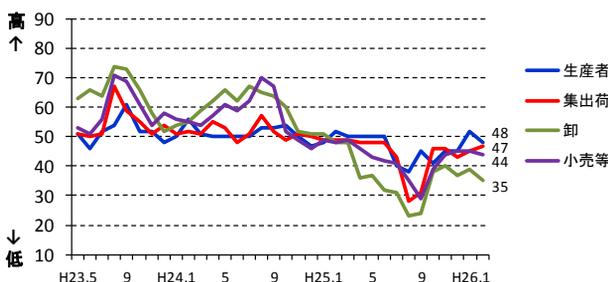
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	-4	(今月の数値	48)
集出荷：前月からの増減	+2	(今月の数値	47)
卸：前月からの増減	-4	(今月の数値	35)
小売等：前月からの増減	-1	(今月の数値	44)

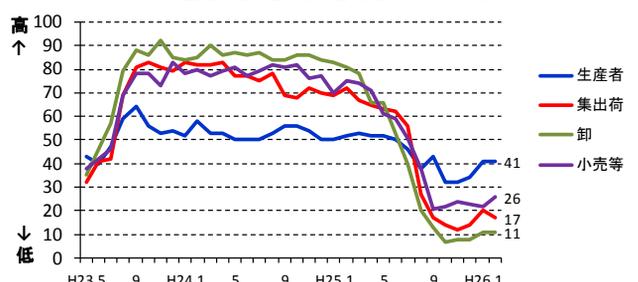
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	±0	(今月の数値	41)
集出荷：前月からの増減	-3	(今月の数値	17)
卸：前月からの増減	±0	(今月の数値	11)
小売等：前月からの増減	+4	(今月の数値	26)

②-イ-a 貴社の“来月”の主食用米の“価格”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



②-イ-b 貴社の“来月”の主食用米の“価格”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



③主食用米の在庫量

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「多くなった」/「(将来)多くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「少なくなった」/「(将来)少なくなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の在庫量に関する現状判断 D I

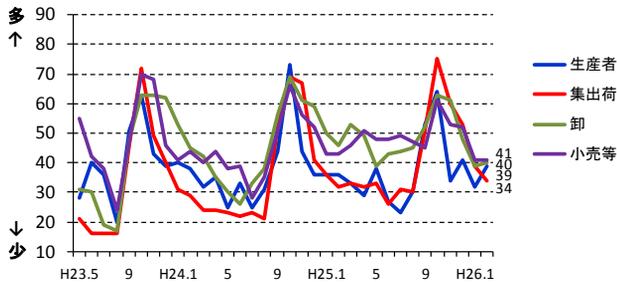
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	+7	(今月の数値	39)
集出荷：前月からの増減	-5	(今月の数値	34)
卸：前月からの増減	+1	(今月の数値	40)
小売等：前月からの増減	±0	(今月の数値	41)

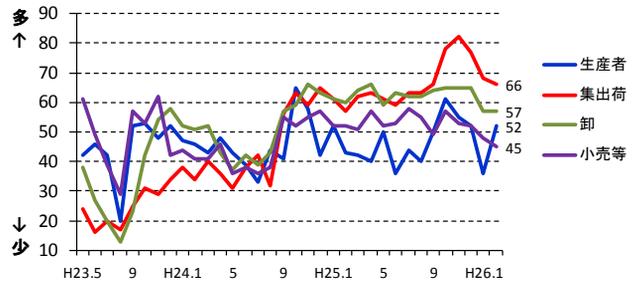
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+16	(今月の数値	52)
集出荷：前月からの増減	-2	(今月の数値	66)
卸：前月からの増減	±0	(今月の数値	57)
小売等：前月からの増減	-3	(今月の数値	45)

③-ア-a 貴社の"今月"の主食用米の"在庫量"について、"先月と比較"するといかがですか。



③-ア-b 貴社の"今月"の主食用米の"在庫量"は、"前年同月と比較"するといかがですか。



(イ) 来月の在庫量に関する見通し D I

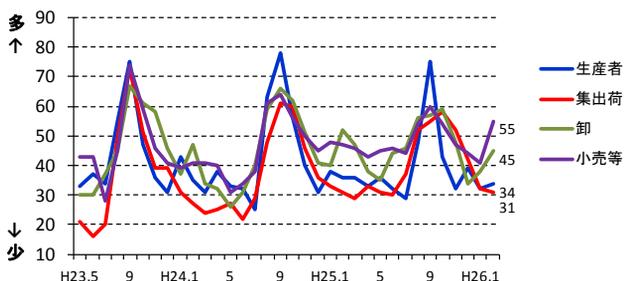
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	+2	(今月の数値	34)
集出荷：前月からの増減	-1	(今月の数値	31)
卸：前月からの増減	+7	(今月の数値	45)
小売等：前月からの増減	+14	(今月の数値	55)

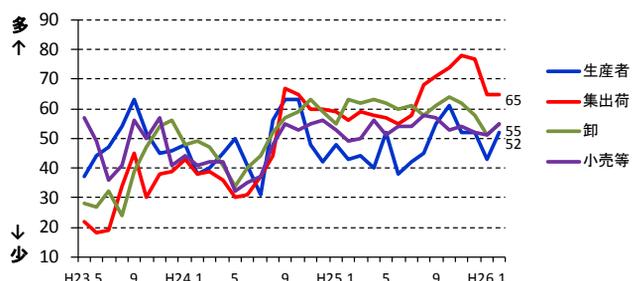
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+9	(今月の数値	52)
集出荷：前月からの増減	±0	(今月の数値	65)
卸：前月からの増減	+4	(今月の数値	55)
小売等：前月からの増減	+4	(今月の数値	55)

③-イ-a 貴社の"来月"の主食用米の"在庫量"について、"今月と比較"してどうなると考えていますか。



③-イ-b 貴社の"来月"の主食用米の"在庫量"について、"前年同月と比較"してどうなると考えていますか。



《アンケート方法等》

○調査期間：毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答

○調査方法：電子メールを利用したアンケート調査

○調査対象者：全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の151客体

○有効回答数：122客体

生産者・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
 集出荷業者／団体・・・・・・・・・・29
 卸売業者（主に主食用米）・・・・28
 小売業者／中食・外食関係業者・・37
 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

※「その他」は以下の業者を示している。
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品（酒類を含む）を製造・販売する者

《利用上の注意》

○表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳は一致しないことがある。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断（評価）にそれぞれ点数（評価点）を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じてDIを算出。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ（量感）を表すものではない。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが算出されることに注意が必要である。

（DIの算出例）

問：国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

II 集出荷・卸段階の動向

(1) 相対取引価格・数量

① 相対取引価格(平成25年産米の主な産地銘柄別、平成26年1月)(速報)

(単位:円/玄米60kg)

産地	品種銘柄 (地域区分)	26年1月 ①	【参考】			
			25年12月 ②	対前月比 ①/②	25年1月 (24年産) ③	対前年 同期比 ①/③
北海道	北海道 ななつぼし	14,006	14,239	(98%)	15,624	(90%)
	北海道 きらら397	14,241	13,986	(102%)	15,612	(91%)
	北海道 ゆめびりか	17,450	17,179	(102%)	—	—
東北	青森 まっしぐら	12,262	13,124	(93%)	15,316	(80%)
	青森 つがるロマン	12,942	13,623	(95%)	—	—
	岩手 ひとめぼれ	14,290	14,547	(98%)	15,902	(90%)
	岩手 あきたこまち	14,246	14,235	(100%)	16,020	(89%)
	宮城 ひとめぼれ	14,320	14,294	(100%)	16,457	(87%)
	宮城 ササニシキ	14,747	—	—	16,726	(88%)
	宮城 まなむすめ	13,547	—	—	—	—
	秋田 あきたこまち	14,513	14,625	(99%)	16,990	(85%)
	秋田 ひとめぼれ	12,926	13,383	(97%)	16,185	(80%)
	秋田 めんこいな	—	—	—	16,736	—
	山形 はえぬき	13,457	13,659	(99%)	16,250	(83%)
	山形 つや姫	17,264	17,017	(101%)	—	—
	山形 ひとめぼれ	14,631	14,805	(99%)	16,558	(88%)
	福島 コシヒカリ 中通り	12,892	12,919	(100%)	16,192	(80%)
福島 コシヒカリ 会津	15,582	15,518	(100%)	16,988	(92%)	
福島 コシヒカリ 浜通り	—	—	—	—	—	
福島 ひとめぼれ	13,080	13,346	(98%)	15,745	(83%)	
関東・東山	茨城 コシヒカリ	14,253	14,080	(101%)	16,897	(84%)
	茨城 あきたこまち	—	13,126	—	—	—
	栃木 コシヒカリ	14,705	14,551	(101%)	16,809	(87%)
	栃木 あさひの夢	—	—	—	15,547	—
	群馬 あさひの夢	—	—	—	15,654	—
	埼玉 彩のかがやき	—	—	—	15,798	—
	千葉 コシヒカリ	14,297	14,143	(101%)	16,987	(84%)
	千葉 ふさこがね	—	13,049	—	—	—
	千葉 ふさおとめ	—	13,120	—	—	—
長野 コシヒカリ	15,332	15,344	(100%)	16,778	(91%)	
北陸	新潟 コシヒカリ 一般	16,569	16,557	(100%)	18,296	(91%)
	新潟 コシヒカリ 魚沼	20,504	21,965	(93%)	24,257	(85%)
	新潟 コシヒカリ 岩船	17,017	17,032	(100%)	18,786	(91%)
	新潟 コシヒカリ 佐渡	17,017	16,984	(100%)	—	—
	新潟 こしいぶき	14,216	14,257	(100%)	16,211	(88%)
	富山 コシヒカリ	15,154	14,885	(102%)	16,409	(92%)
	富山 てんたかく	—	—	—	—	—
	石川 コシヒカリ	15,006	14,678	(102%)	17,020	(88%)
	石川 ゆめみづぼ	—	—	—	—	—
	福井 コシヒカリ	15,220	15,150	(100%)	17,073	(89%)
福井 ハナエチゼン	14,113	—	—	15,807	(89%)	
東海・近畿	岐阜 ハツシモ	—	—	—	—	—
	愛知 あいちのかおり	—	—	—	—	—
	愛知 コシヒカリ	—	—	—	—	—
	三重 コシヒカリ 一般	14,715	14,679	(100%)	17,007	(87%)
	滋賀 コシヒカリ	15,606	15,178	(103%)	—	—
	滋賀 キヌヒカリ	—	13,893	—	—	—
兵庫 コシヒカリ	—	15,521	—	—	—	
中国・四国	鳥取 コシヒカリ	14,313	—	—	—	—
	鳥取 ひとめぼれ	13,632	—	—	—	—
	島根 コシヒカリ	15,173	15,125	(100%)	17,291	(88%)
	島根 きぬむすめ	—	—	—	—	—
	岡山 アケボノ	—	—	—	16,117	—
	広島 コシヒカリ	14,020	14,377	(98%)	16,336	(86%)
	山口 コシヒカリ	—	14,801	—	16,953	—
	徳島 コシヒカリ	14,472	—	—	—	—
	香川 ヒノヒカリ	—	13,979	—	15,927	—
高知 コシヒカリ	—	—	—	—	—	
九州	福岡 ヒノヒカリ	15,247	14,481	(105%)	16,184	(94%)
	福岡 夢つくし	16,665	—	—	16,636	(100%)
	佐賀 夢しずく	—	—	—	—	—
	熊本 ヒノヒカリ	14,426	14,491	(100%)	—	—
	大分 ヒノヒカリ	14,614	—	—	16,658	(88%)
	宮崎 コシヒカリ	—	—	—	—	—
鹿児島 ヒノヒカリ	—	—	—	—	—	
全銘柄平均価格		14,534	14,582	(99.7%)	16,587	(87.6%)

資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注: 1 相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約(数量と価格が決定した時点を基準としている。)の価格(運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。)であり、その数量を用いて加重平均した価格である。その際、新潟、長野、静岡以東(東日本)の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西(西日本)の産地銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2 また、相対取引価格は、個々の取引数量に応じて設定される大口割引等の割引が適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等(栽培方法等)の価格調整が行われることがある。

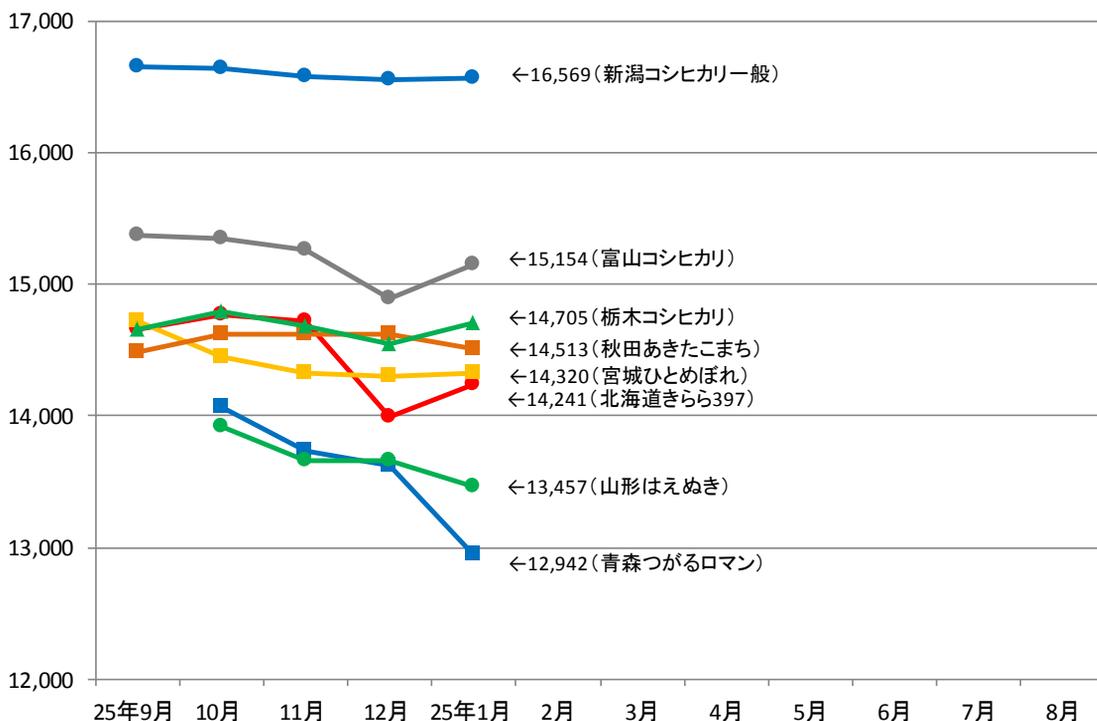
3 産地銘柄は、報告対象産地銘柄のうち24年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のものであり、価格は月1,000トン以上の取引があったものである。

4 全銘柄平均価格は、報告対象産地銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5 25年1月は24年産の価格である。

② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成25年産米）

（単位：円/玄米60kg、税込）



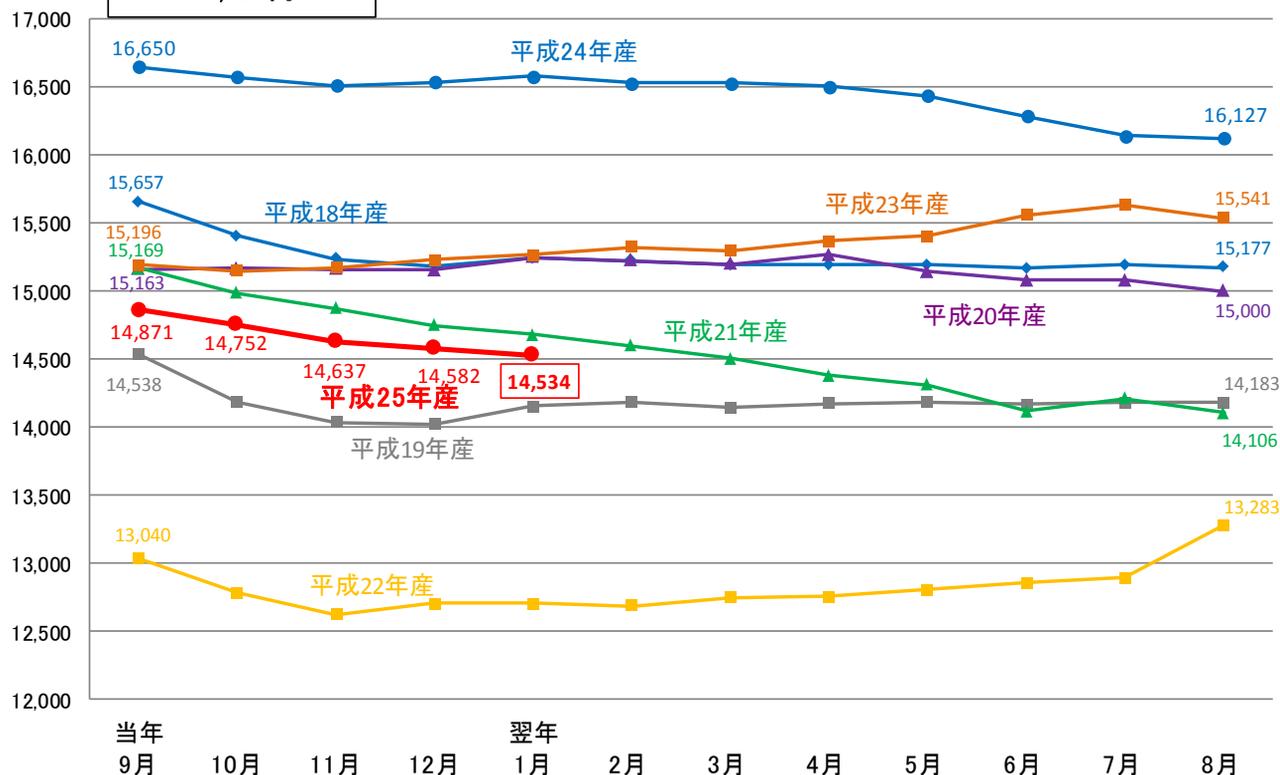
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：相対取引価格に関する留意点については、6ページの注を参照。

③ 相対取引価格（年産別）

平成25年産(1月)
14,534円

（単位：円/玄米60kg、税込）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：相対取引価格に関する留意点については、6ページの注を参照。

④ 相対取引数量

(累積数量、平成25年産米の主な産地銘柄別、平成26年1月) (速報)

(単位：玄米トン)

産地	品種銘柄	地域区分	25年産	(前年比)	(前々年比)	24年産	23年産
			(26年1月まで) ①	①/②	①/③	(25年1月まで) ②	(24年1月まで) ③
北海道	北海道		83,057	(56%)	(60%)	147,770	137,581
	北海道		50,110	(50%)	(50%)	99,733	100,114
	北海道		31,980	-	-	-	-
東北	青森		41,180	(74%)	(83%)	55,754	49,763
	青森		16,379	(73%)	(50%)	22,560	32,523
	岩手		33,729	(36%)	(34%)	93,405	100,092
	岩手		5,311	(23%)	(21%)	22,875	24,724
	宮城		67,634	(54%)	(66%)	125,290	102,525
	宮城		4,595	(55%)	(44%)	8,326	10,335
	宮城		3,221	(34%)	(28%)	9,423	11,459
	秋田		59,357	(55%)	(46%)	107,276	129,714
	秋田		6,783	(47%)	(39%)	14,492	17,313
	秋田		1,681	(24%)	(16%)	6,917	10,346
	山形		28,895	(53%)	(51%)	54,855	57,058
	山形		14,264	-	-	-	-
	山形		5,702	(57%)	(59%)	9,978	9,745
	福島		7,073	(47%)	(69%)	15,178	10,273
福島		14,673	(65%)	(167%)	22,515	8,785	
福島		345	(167%)	(191%)	207	181	
福島		9,897	(95%)	(98%)	10,464	10,116	
関東・東山	茨城		32,436	(70%)	(79%)	46,161	41,047
	茨城		8,016	(80%)	(89%)	9,970	9,053
	栃木		32,352	(39%)	(41%)	82,523	78,768
	栃木		2,231	(14%)	(13%)	15,719	17,243
	群馬		1,013	(14%)	(32%)	7,037	3,214
	埼玉		2,962	(43%)	(36%)	6,935	8,223
	千葉		21,576	(62%)	(65%)	34,658	33,177
	千葉		11,684	(60%)	(63%)	19,559	18,435
	千葉		13,703	(81%)	(86%)	16,914	15,871
長野		28,484	(73%)	(91%)	39,086	31,147	
北陸	新潟		51,389	(98%)	(68%)	52,417	75,212
	新潟		11,345	(81%)	(59%)	14,085	19,117
	新潟		5,771	(87%)	(66%)	6,626	8,742
	新潟		7,372	(108%)	(62%)	6,856	11,827
	新潟		20,663	(77%)	(57%)	26,874	36,223
	富山		31,277	(48%)	(40%)	64,677	77,619
	富山		3,729	(50%)	(51%)	7,500	7,263
	石川		9,035	(91%)	(92%)	9,884	9,794
	石川		2,336	(48%)	(45%)	4,819	5,223
	福井		11,142	(79%)	(64%)	14,076	17,387
福井		11,577	(74%)	(111%)	15,570	10,414	
東海・近畿	岐阜		1,315	-	(25%)	-	5,189
	愛知		1,915	(35%)	(30%)	5,471	6,356
	愛知		1,228	(27%)	(25%)	4,625	4,981
	三重		5,504	(44%)	(44%)	12,471	12,583
	滋賀		12,491	(50%)	(83%)	24,808	15,083
	滋賀		8,282	(60%)	(127%)	13,838	6,512
兵庫		6,036	(110%)	(86%)	5,483	6,993	
中国・四国	鳥取		2,580	(72%)	(65%)	3,587	3,959
	鳥取		3,705	(75%)	(73%)	4,916	5,084
	島根		6,734	(58%)	(55%)	11,660	12,152
	島根		3,261	(53%)	(75%)	6,119	4,372
	岡山		352	(7%)	(7%)	5,086	5,290
	広島		19,791	(195%)	(284%)	10,132	6,972
	山口		4,177	(65%)	(55%)	6,473	7,597
	徳島		6,104	(68%)	(69%)	8,945	8,877
	香川		2,923	(70%)	(59%)	4,158	4,956
高知		4,558	(127%)	(101%)	3,591	4,520	
九州	福岡		9,187	(93%)	(70%)	9,887	13,207
	福岡		7,632	(120%)	(85%)	6,335	8,993
	佐賀		1,483	(29%)	(17%)	5,062	8,794
	熊本		3,836	(103%)	(98%)	3,739	3,912
	大分		4,208	(77%)	(93%)	5,463	4,505
	宮崎		5,770	(71%)	(93%)	8,152	6,179
	鹿児島		2,004	(105%)	(68%)	1,910	2,957
全銘柄合計数量			1,006,405	(61%)	(60%)	1,637,666	1,674,507

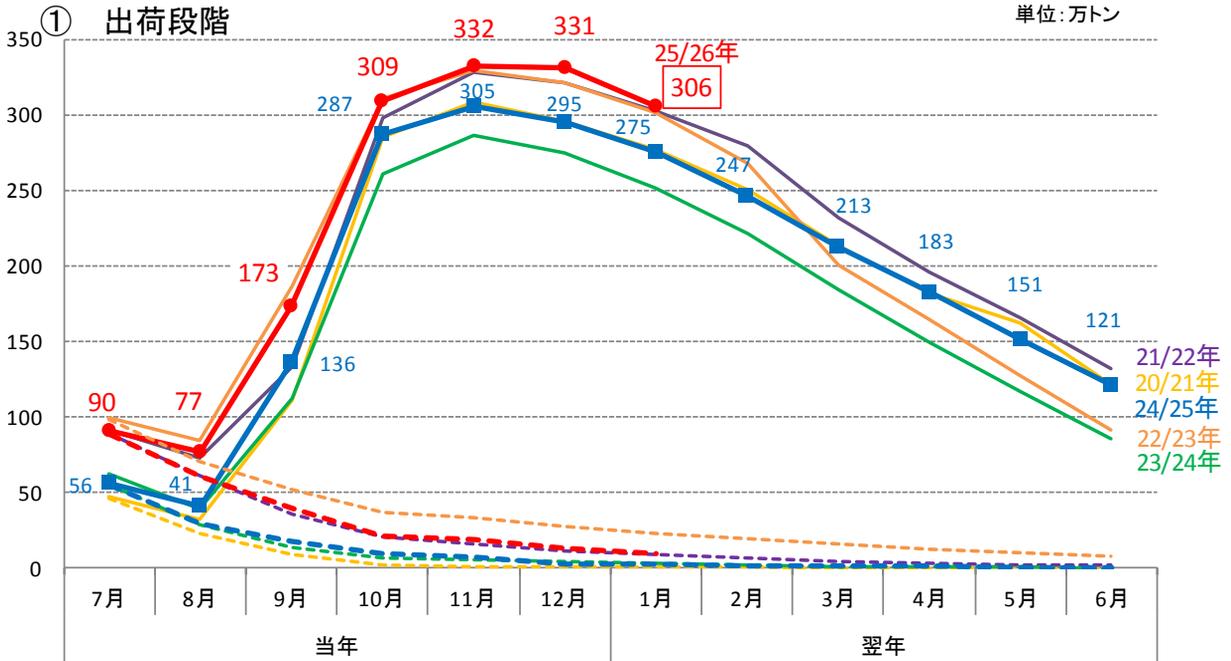
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 相対取引数量は、ア 全国団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者が、卸売業者等と主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点を基準としている。）を行った数量（1等米の数量）である。なお、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本の産地銘柄）については受渡地を西日本としているものを対象としている。

2 産地銘柄は、報告対象産地銘柄のうち、24年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のもの。

3 全銘柄合計数量は、農林水産省が公表している相対取引価格の報告対象銘柄の相対取引数量の合計。

(2) 民間在庫の推移



注: グラフ中の実線は総在庫数量。破線は1年古米在庫数量である。

【出荷段階】

(単位: 万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
20/21年	47	32	111	285	308	296	277	251	214	182	163	121
対前年差	▲16	▲16	▲19	▲7	▲5	+7	+8	+15	+47	+47	+57	+47
1年古米	46	23	9	1	1	1	0	0	0	0	0	0
新米	1	8	101	281	305	293	275	249	212	181	162	121
21/22年	91	73	133	299	328	321	303	279	232	197	165	132
対前年差	+44	+41	+22	+14	+20	+25	+26	+28	+18	+15	+2	+11
1年古米	90	61	36	21	15	11	9	7	5	3	2	2
新米	1	11	96	275	309	308	291	271	225	191	162	130
22/23年	100	85	187	311	329	321	301	268	201	164	128	92
対前年差	+9	+12	+54	+12	+1	▲0	▲1	▲11	▲31	▲32	▲37	▲40
1年古米	99	70	51	37	34	28	23	20	16	13	11	8
新米	0	13	134	271	294	291	276	247	184	151	117	82
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
1年古米	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
新米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
1年古米	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
新米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
25/26年	90	77	173	309	332	331	306					
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31					
1年古米	89	61	40	21	19	13	10					
新米	1	16	132	285	310	316	294					

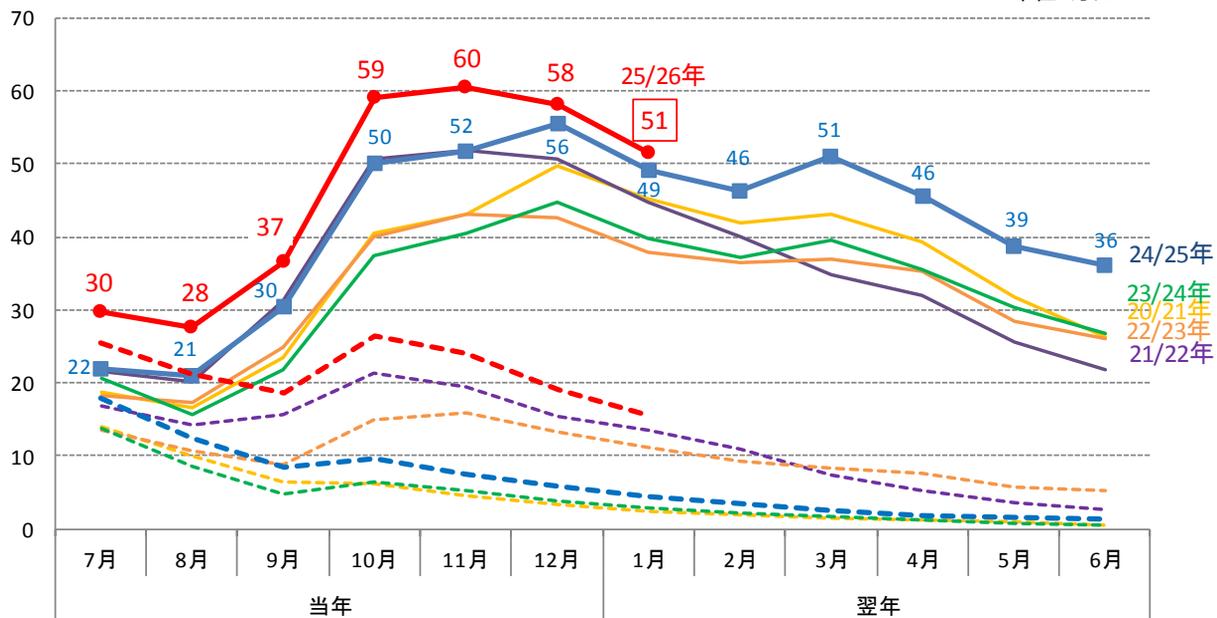
資料: 農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」(～20年7月)

農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」(20年8月～)

- 注: 1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量(玄米換算)の値である。
 2 米穀の出荷の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が500トン以上の者の値である。
 3 期間については、23/24年であれば、23年7月～24年6月である。
 4 22/23年7月末以降は、速報値である。
 5 23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。
 6 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

② 販売段階

単位：万トン



注：グラフ中の実線は総在庫数量。破線は1年古米在庫数量である。

【販売段階】

(単位：万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
20/21年	19	17	23	41	43	50	45	42	43	39	32	26
対前年差	▲0	▲1	+2	+4	+3	+2	+2	+2	+5	+4	+6	+3
1年古米	14	10	6	6	5	3	3	2	1	1	1	0
新米	0	3	12	26	28	36	34	32	34	32	26	21
21/22年	22	20	31	51	52	51	45	40	35	32	26	22
対前年差	+3	+4	+8	+10	+9	+1	▲0	▲2	▲8	▲7	▲6	▲5
1年古米	17	14	16	21	20	15	13	11	7	5	4	3
新米	0	3	11	22	24	27	24	23	22	22	18	16
22/23年	18	17	25	40	43	43	38	36	37	35	28	26
対前年差	▲3	▲3	▲6	▲11	▲9	▲8	▲7	▲4	+2	+3	+3	+4
1年古米	14	11	9	15	16	13	11	9	8	8	6	5
新米	0	3	12	19	21	23	21	22	24	23	19	17
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	+0	+2	+1
1年古米	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
新米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
1年古米	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
新米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
25/26年	30	28	37	59	60	58	51					
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2					
1年古米	25	21	19	26	24	19	16					
新米	0	3	13	25	27	29	27					

資料：農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」（～20年7月）

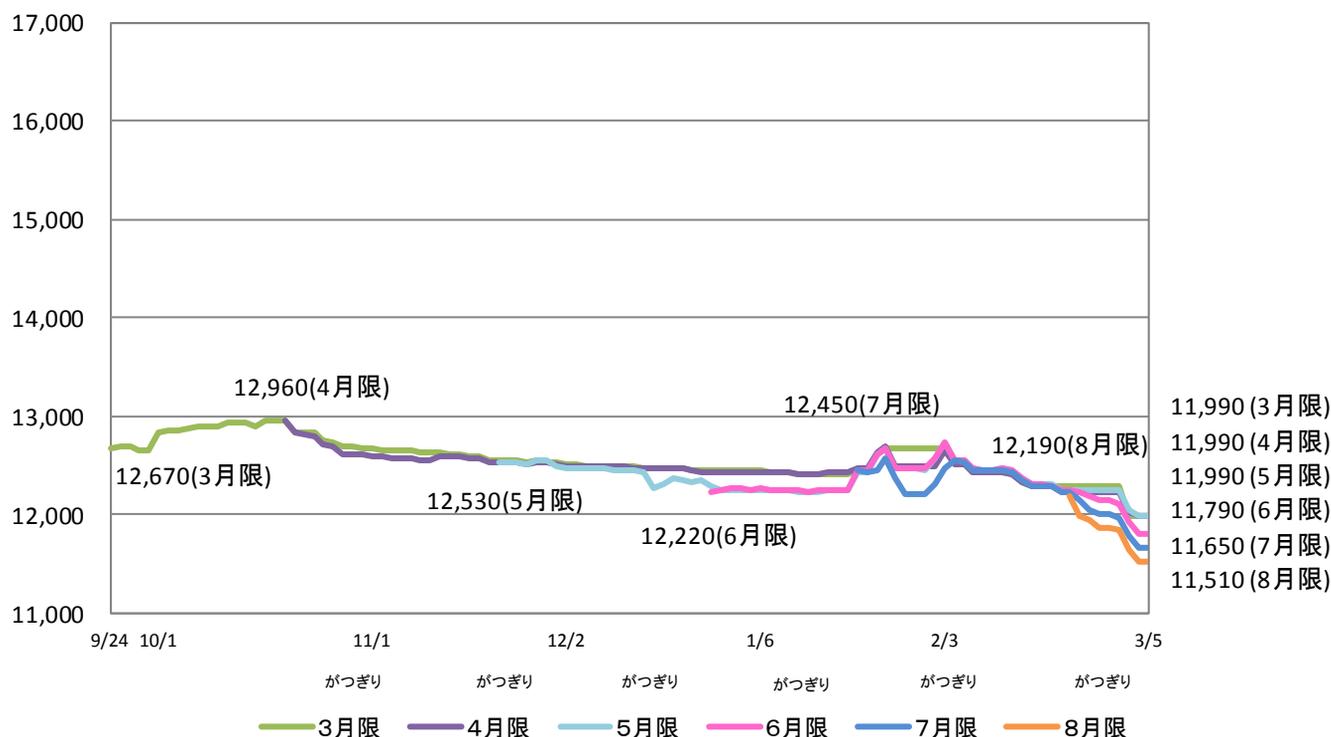
農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」（20年8月～）

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 米穀の販売の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が4,000トン以上の者の値である。
 3 期間については、23/24年であれば、23年7月～24年6月である。
 4 22/23年7月以降の値は、速報値である。
 5 23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。
 6 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(3) 米の先物取引価格の推移

①東京コメ

円/60Kg

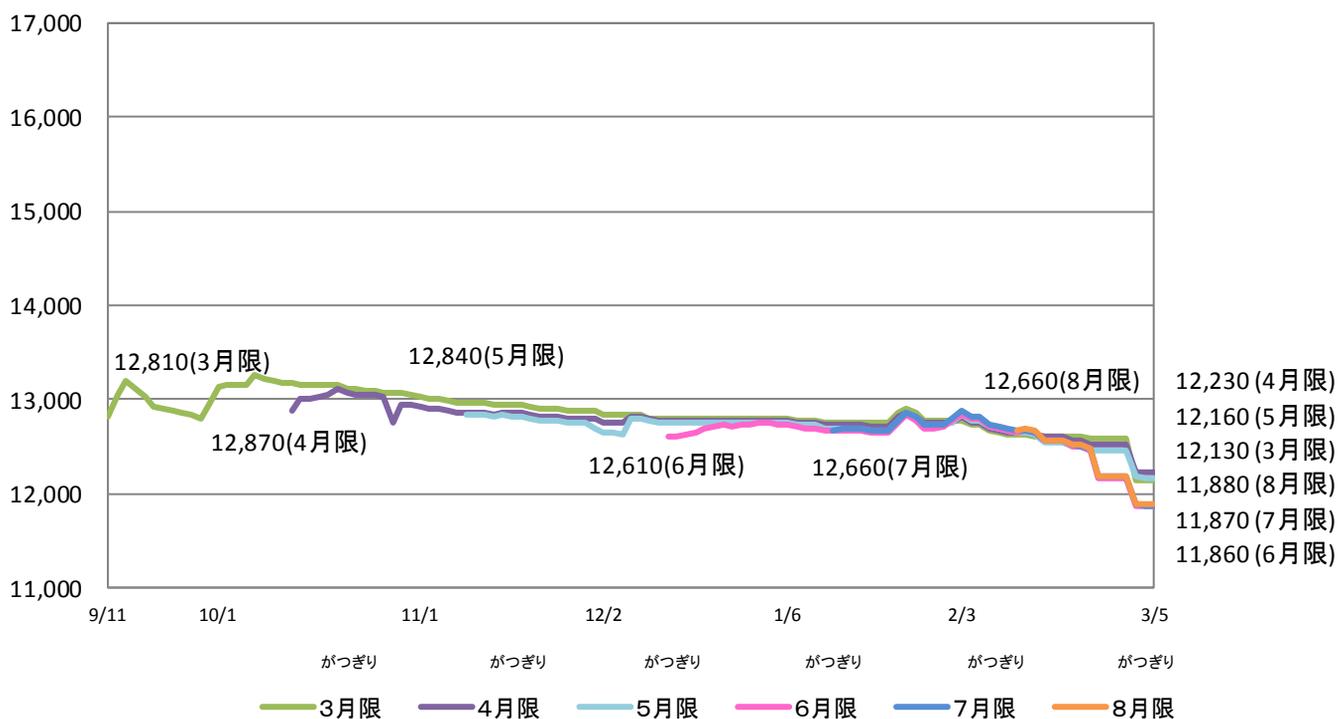


出典:大阪堂島商品取引所

注:取引開始から本レポート公表日の2日前の後場第3節までの価格の推移である。

②大阪コメ

円/60Kg



出典:大阪堂島商品取引所

注:取引開始から本レポート公表日の2日前の後場第3節までの価格の推移である。

(4) 業者間取引の状況

① 日本コメ市場（随時取引の結果）

○ 価格は、主にスポット取引の価格であり、相当期間にわたり安定的に行う取引の価格とは性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。

（関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg）

年産・産地銘柄	9月下旬	10月上旬	10月下旬	11月上旬	11月下旬	12月上旬	12月下旬	1月上旬	1月下旬	2月上旬	2月下旬
25年産 秋田あきたこまち	13,293	13,215	13,336	13,442	13,432	13,442	13,487	13,523	13,547	13,557	13,531
25年産 福島中通りコシヒカリ	-	12,500	-	-	-	-	-	-	12,257	-	-
25年産 茨城コシヒカリ	-	-	12,865	12,815	-	12,642	-	-	12,747	-	12,593
25年産 新潟一般コシヒカリ	15,469	-	-	-	-	-	-	-	15,743	-	-

出典：日本コメ市場株式会社HP

- 注：1 随時取引とは、取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引である。
 2 上記価格は、日本コメ市場(株)の取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
 3 上期は、1日から15日まで、下期は、16日から月末までを示す。
 4 「-」に関しては、成約数量が日本コメ市場の内部規程で定める基準を満たさなかったため非公表。

② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）

（主たる銘柄の成約状況）

（関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg、トン）

年産・産地銘柄	平成25年度											
	第1回 4月25日		第2回 7月18日		第3回 8月29日		第4回 10月10日		第5回 11月29日		第6回 1月16日	
	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量
24年産 北海道きらら397	-	-	14,600	20	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 秋田あきたこまち	14,971	46	13,820	73	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 福島ひとめぼれ	14,750	24	13,107	37	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 福島チヨニシキ	14,350	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 茨城コシヒカリ	14,898	38	13,585	43	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 新潟一般コシヒカリ	16,557	84	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24年産 富山コシヒカリ	-	-	14,875	24	-	-	-	-	-	-	-	-
25年産 秋田あきたこまち	-	-	-	-	-	-	13,304	173	13,497	178	13,531	233
25年産 福島ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12,388	53
25年産 茨城コシヒカリ	-	-	-	-	12,661	55	12,711	56	12,677	52	12,550	24
25年産 茨城ひとめぼれ	-	-	-	-	12,200	37	12,175	12	12,200	12	-	-
25年産 茨城あきたこまち	-	-	-	-	12,270	180	-	-	-	-	-	-
25年産 茨城チヨニシキ	-	-	-	-	11,900	60	-	-	-	-	-	-
25年産 群馬あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	11,900	24	-	-
25年産 千葉ふさこがね	-	-	-	-	-	-	12,300	36	-	-	12,300	238
25年産 千葉ふさおとめ	-	-	-	-	12,210	30	-	-	-	-	-	-
25年産 新潟一般コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	15,267	36	14,976	25	15,882	89
成約米穀の平均価格(加重平均)	15,446	362	14,020	435	12,584	669	13,137	904	13,391	686	12,947	1,152

出典：日本コメ市場株式会社HP

- 注：1 取引会における取引は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において開催される取引会において入札により行われるものである。
 2 価格は、取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
 3 「-」は、同社のホームページにおいて非公表を示す。

(5) (株)加工用米取引センターの取引結果

【平成25年産】

(単位: 成約数量・トン、成約価格・円/60kg(包装代込み・税抜き))

取引日	産地、銘柄	等級	成約数量	成約価格
平成25年 9月3日	茨城コシヒカリ(主食用)	1等	13	12,900
9月24日	茨城コシヒカリ(主食用)	1等	26	12,900
9月24日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	12	15,500
10月11日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	12	14,950
10月11日	北海道きさら397(主食用)	1等	5	13,920
10月11日	山形ササニシキ(主食用)	1等	5	14,350
10月18日	島根きぬむすめ(主食用)	1等	12	13,550
10月22日	茨城コシヒカリ(主食用)	1等	26	12,900
10月23日	千葉ひとめぼれ(主食用)	1等	7	12,200
11月6日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	12	13,650
11月6日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	24	13,550
11月15日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	11	13,650
11月15日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	5	15,000
11月22日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	5	13,650
11月22日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	5	13,600
11月25日	新潟コシヒカリ(魚沼)(主食用)	1等	4	19,850
11月25日	新潟コシヒカリ(魚沼)(主食用)	2等	2	19,250
11月25日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	5	15,000
11月25日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	5	13,900
11月25日	新潟コシヒカリ(佐渡)(特裁)(主食用)	1等	5	18,050
11月25日	新潟コシヒカリ(佐渡)(特裁)(主食用)	2等	1	17,450
11月26日	鳥取コシヒカリ(主食用)	2等	12	13,250
11月26日	岡山コシヒカリ(主食用)	1等	12	13,700
11月26日	広島コシヒカリ(主食用)	2等	12	13,350
11月26日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	5	15,150
12月2日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	5	14,950
12月3日	新潟コシヒカリ(魚沼)(主食用)	1等	4	19,850
12月3日	新潟コシヒカリ(魚沼)(主食用)	2等	2	19,250
12月3日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	11	13,900
12月3日	山形つや姫(主食用)	1等	60	16,500

取引日	産地、銘柄	等級	成約数量	成約価格
12月6日	栃木コシヒカリ(主食用)	1等	13	12,810
12月9日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	3	15,000
12月9日	富山コシヒカリ(主食用)	2等	3	14,400
平成26年 1月6日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	48	15,850
1月6日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	48	15,800
1月6日	新潟コシヒカリ(岩船)(主食用)	1等	6	15,700
1月9日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	12	15,600
1月9日	山形つや姫(主食用)	1等	13	16,800
1月10日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	8	16,400
1月10日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	2等	4	15,800
1月23日	山形つや姫(主食用)	1等	13	16,800
1月27日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	6	16,400
1月27日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	2等	6	15,800
1月31日	山形つや姫(主食用)	1等	13	16,800
2月6日	山形つや姫(主食用)	1等	13	16,800
2月12日	新潟コシヒカリ(佐渡)(特裁)(主食用)	1等	5	18,050
2月12日	新潟コシヒカリ(佐渡)(特裁)(主食用)	2等	1	17,450
2月20日	岡山コシヒカリ(主食用)	1等	3	13,700
2月20日	岡山コシヒカリ(主食用)	2等	12	13,450
2月20日	岡山コシヒカリ(主食用)	2等	9	13,400
2月20日	山形つや姫(主食用)	1等	13	16,800
2月28日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	6	16,400
2月28日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	2等	6	15,800
2月28日	山形つや姫(主食用)	1等	50	16,800

資料: (株)加工用米取引センターHP

注: 1 すべて玄米60kg当たりの価格。

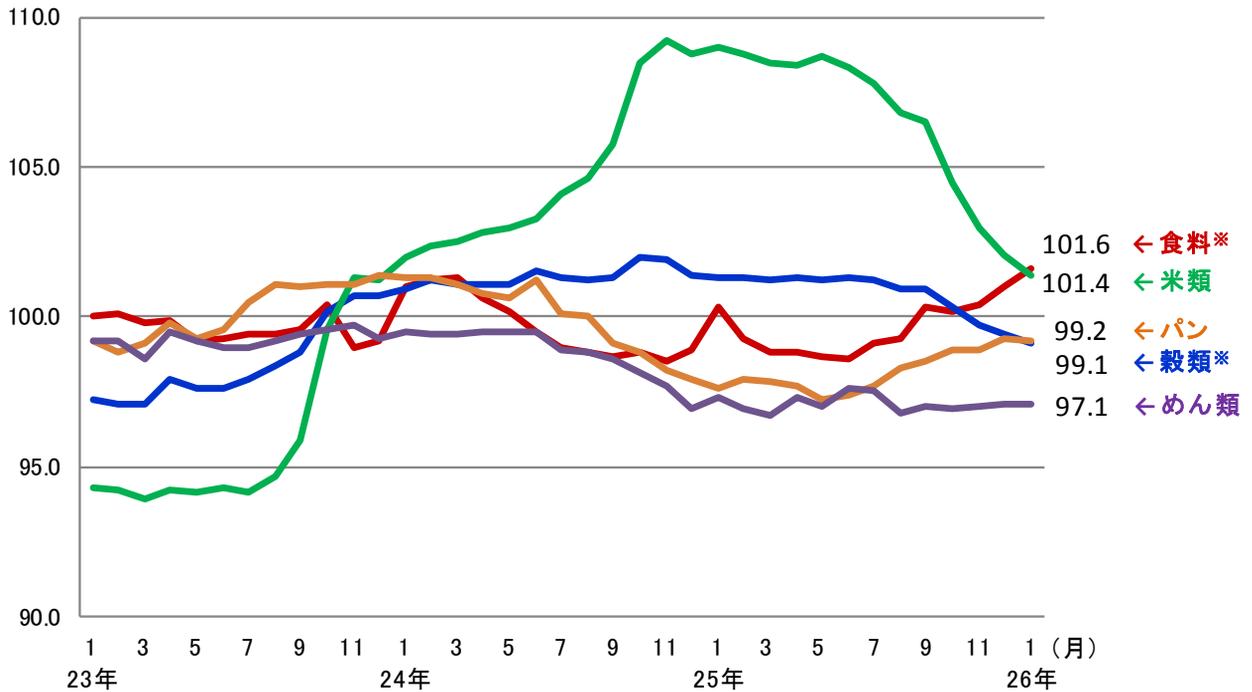
2 商品形態は、玄米30kg紙袋である。ただし、売側・買側の合意があった場合には、フレコンも可とされている。

3 成約価格は、着地持込価格。

Ⅲ 小売・消費段階の動向

(1) 消費者物価指数の推移

(図) 消費者物価指数の推移



- 注：1 図中の実線は、平成22年の平均価格を100とした数値となる。
 2 図中の数値は、平成26年1月の消費者物価指数となる。
 3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移 (対前年同月比)

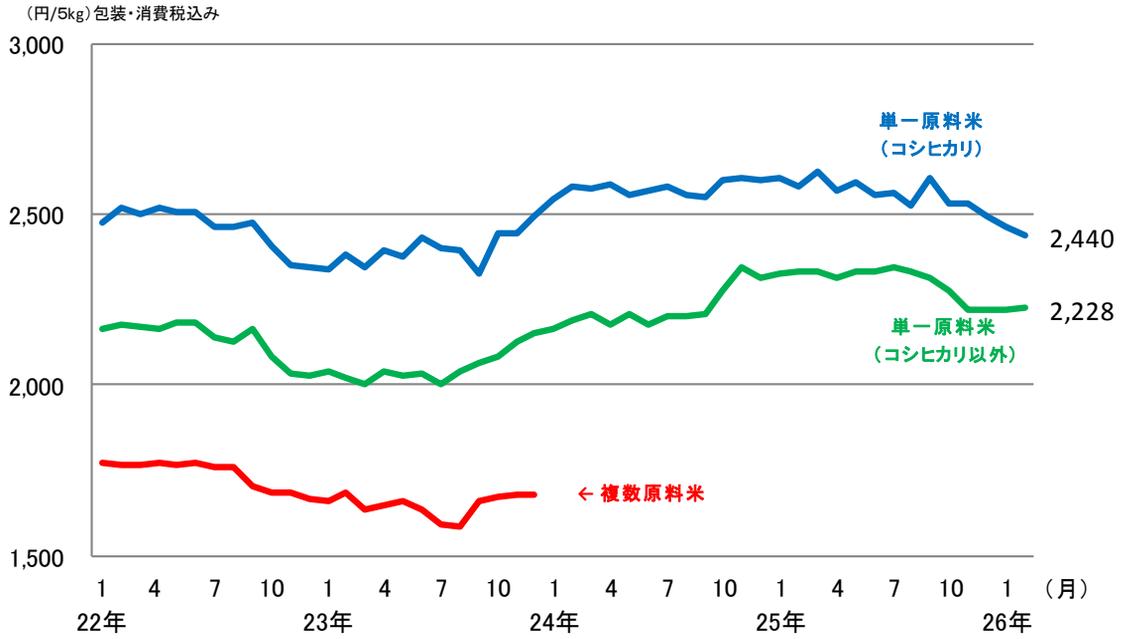
	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
	対前年同月比											
平成17年	96.8	▲0.9%	98.5	▲6.6%	109.8	▲13.3%	109.8	▲12.9%	91.6	▲1.1%	91.2	▲0.9%
平成18年	97.3	0.5%	96.8	▲1.7%	106.4	▲3.1%	106.5	▲3.0%	91.5	▲0.1%	90.1	▲1.2%
平成19年	97.6	0.3%	96.4	▲0.4%	104.5	▲1.8%	104.7	▲1.7%	92.1	0.7%	89.7	▲0.4%
平成20年	100.1	2.6%	102.6	6.4%	103.2	▲1.2%	103.4	▲1.2%	103.8	12.7%	100.2	11.7%
平成21年	100.3	0.2%	103.3	0.7%	103.6	0.4%	103.6	0.2%	104.0	0.2%	101.9	1.7%
平成22年	100.0	▲0.3%	100.0	▲3.2%	100.0	▲3.5%	100.0	▲3.5%	100.0	▲3.8%	100.0	▲1.9%
平成23年	99.6	▲0.4%	98.4	▲1.6%	96.0	▲4.0%	95.9	▲4.1%	100.2	0.2%	99.2	▲0.8%
平成24年	99.7	0.1%	101.3	2.9%	104.8	9.2%	105.1	9.6%	100.0	▲0.2%	98.8	▲0.4%
平成25年1月	100.3	▲0.7%	101.3	0.4%	109.0	6.9%	109.6	7.1%	97.6	▲3.7%	97.3	▲2.2%
2月	99.3	▲1.9%	101.3	0.1%	108.8	6.3%	109.3	6.4%	97.9	▲3.4%	96.9	▲2.5%
3月	98.8	▲2.5%	101.2	0.1%	108.5	5.9%	109.1	6.1%	97.8	▲3.3%	96.7	▲2.7%
4月	98.8	▲1.8%	101.3	0.2%	108.4	5.4%	108.9	5.7%	97.7	▲3.1%	97.3	▲2.2%
5月	98.7	▲1.5%	101.2	0.1%	108.7	5.5%	109.2	5.8%	97.2	▲3.4%	97.0	▲2.5%
6月	98.6	▲0.9%	101.3	▲0.2%	108.3	4.8%	108.8	5.0%	97.4	▲3.8%	97.6	▲1.9%
7月	99.1	0.1%	101.2	▲0.1%	107.8	3.6%	108.3	3.7%	97.7	▲2.4%	97.5	▲1.4%
8月	99.3	0.5%	100.9	▲0.3%	106.8	2.1%	107.3	2.3%	98.3	▲1.7%	96.8	▲2.0%
9月	100.3	1.6%	100.9	▲0.4%	106.5	0.7%	107.0	0.7%	98.5	▲0.6%	97.0	▲1.6%
10月	100.2	1.4%	100.3	▲1.7%	104.5	▲3.7%	104.8	▲3.9%	98.9	0.1%	96.9	▲1.2%
11月	100.4	1.9%	99.7	▲2.2%	103.0	▲5.7%	103.3	▲5.8%	98.9	0.7%	97.0	▲0.7%
12月	101.0	2.1%	99.4	▲2.0%	102.1	▲6.2%	102.5	▲6.4%	99.3	1.4%	97.1	0.2%
平成26年1月	101.6	1.3%	99.1	▲2.2%	101.4	▲7.0%	101.7	▲7.2%	99.2	1.6%	97.1	▲0.2%

資料： 総務省「消費者物価指数」(平成22年基準)

- 注：1 表中の数値は、平成22年の平均価格を100として指数化したものである。
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
 3 穀類は、米類(うるち米、もち米)、パン、めん類、他の穀類からなる。
 4 平成17年から平成24年のデータは年平均、平成25年1月以降は月次データを用いている。

(2) 小売物価統計の推移

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位: 円/5kg 包装・消費税込み)

	うるち米		
	単一原料米 (コシヒカリ)	単一原料米 (コシヒカリ以外)	複数原料米
平成17年	2,804	2,375	2,040
平成18年	2,744	2,341	1,996
平成19年	2,670	2,288	1,950
平成20年	2,610	2,270	1,832
平成21年	2,531	2,201	1,812
平成22年	2,462	2,136	1,739
平成23年	2,399	2,053	1,649
平成24年	2,577	2,223	-
平成24年1月	2,545	2,165	-
2月	2,585	2,188	-
3月	2,576	2,209	-
4月	2,592	2,178	-
5月	2,559	2,206	-
6月	2,568	2,177	-
7月	2,583	2,205	-
8月	2,557	2,202	-
9月	2,550	2,210	-
10月	2,604	2,276	-
11月	2,609	2,345	-
12月	2,600	2,315	-
平成25年1月	2,608	2,330	-
2月	2,585	2,336	-
3月	2,627	2,331	-
4月	2,573	2,313	-
5月	2,593	2,331	-
6月	2,559	2,331	-
7月	2,566	2,347	-
8月	2,530	2,333	-
9月	2,609	2,313	-
10月	2,532	2,276	-
11月	2,532	2,224	-
12月	2,496	2,223	-
平成26年1月	2,466	2,223	-
2月	2,440	2,228	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

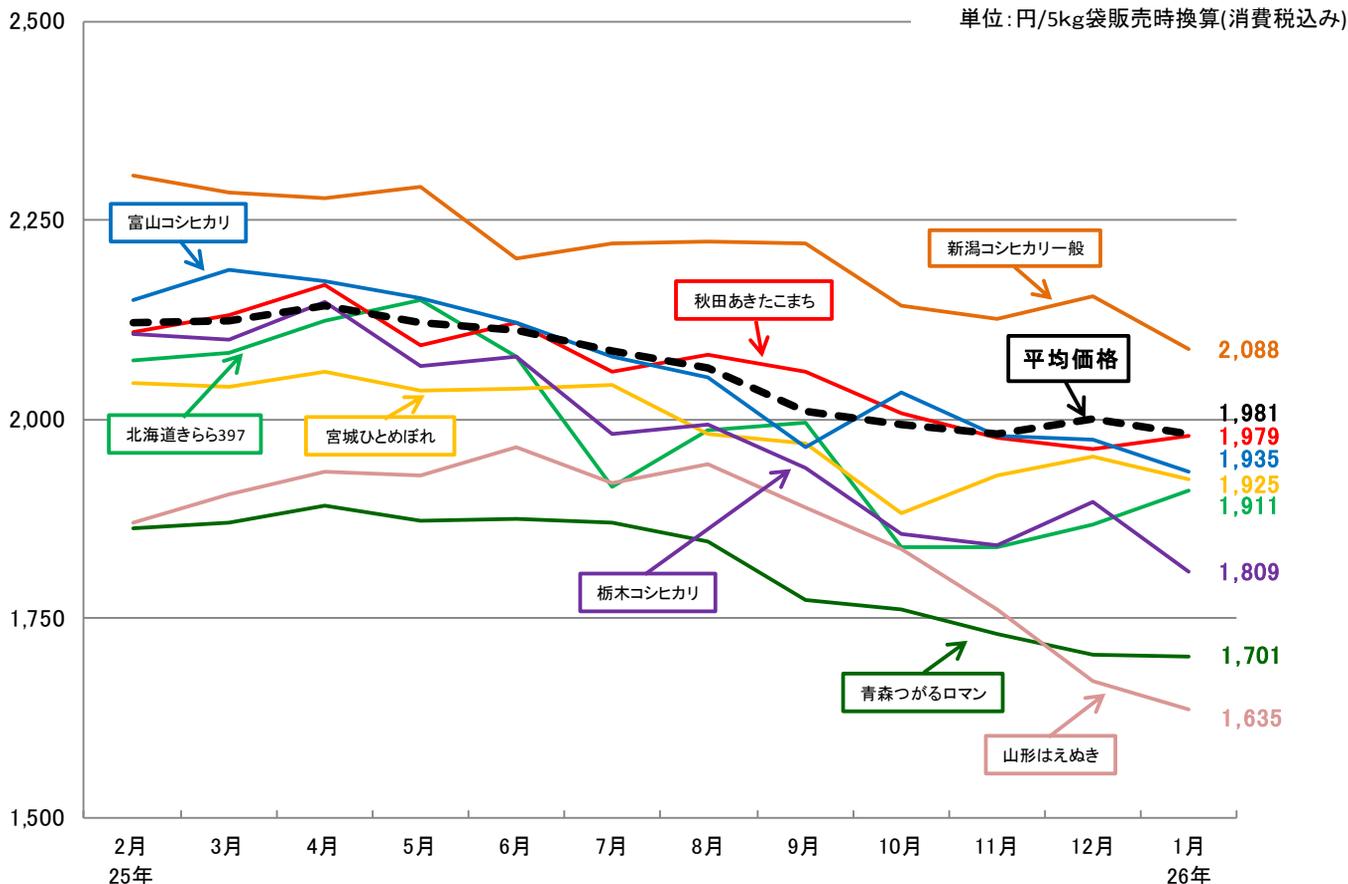
2：特売を除いた価格である。

3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(3) 小売価格の推移 (POSデータ)

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位:円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄								
	北海道 きらら397	青森 つがるロマン	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	栃木 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	富山 コシヒカリ	全POS取引 平均価格
25年2月	2,075	1,863	2,045	2,110	1,869	2,108	2,307	2,150	2,122
3月	2,084	1,871	2,041	2,131	1,905	2,100	2,286	2,188	2,125
4月	2,124	1,891	2,059	2,168	1,935	2,147	2,279	2,174	2,143
5月	2,150	1,873	2,036	2,093	1,930	2,066	2,293	2,152	2,122
6月	2,079	1,876	2,038	2,121	1,964	2,079	2,201	2,122	2,111
7月	1,915	1,869	2,043	2,060	1,921	1,981	2,220	2,080	2,086
8月	1,986	1,847	1,982	2,082	1,943	1,993	2,223	2,053	2,064
9月	1,995	1,773	1,970	2,059	1,889	1,940	2,222	1,966	2,009
10月	1,840	1,762	1,882	2,007	1,838	1,856	2,142	2,034	1,994
11月	1,840	1,731	1,930	1,978	1,760	1,841	2,126	1,980	1,982
12月	1,867	1,705	1,953	1,963	1,672	1,896	2,154	1,974	2,001
26年1月	1,911	1,701	1,925	1,979	1,635	1,809	2,088	1,935	1,981

資料: (株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注: 1 (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約880店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

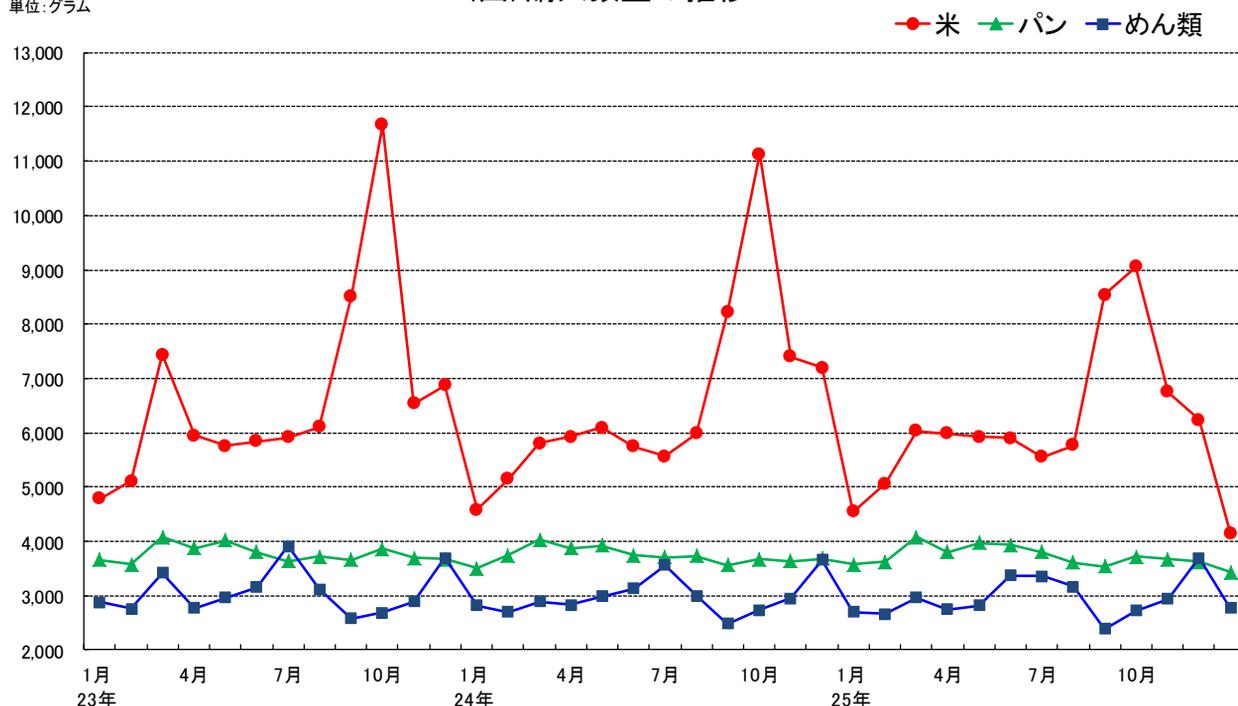
3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

(4) 購入数量の推移(家計調査)

(図)購入数量の推移

単位:グラム



(表)購入数量の推移

(単位:グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 同月比	購入数量	対前年 同月比	購入数量	対前年 同月比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,140	97.7%	45,493	99.8%	36,999	101.0%
平成23年	80,510	96.8%	45,254	99.5%	36,835	99.6%
平成24年	78,800	97.9%	44,820	99.0%	35,738	97.0%
平成24年1月	4,580	95.6%	3,505	95.9%	2,821	98.1%
2月	5,150	100.8%	3,744	104.8%	2,699	97.7%
3月	5,810	78.1%	4,035	99.0%	2,889	84.4%
4月	5,930	99.7%	3,870	99.8%	2,831	102.0%
5月	6,090	105.7%	3,917	97.6%	2,986	100.9%
6月	5,750	98.5%	3,741	98.3%	3,132	99.5%
7月	5,560	94.1%	3,704	101.8%	3,557	90.9%
8月	5,990	98.0%	3,736	100.3%	2,996	96.0%
9月	8,220	96.5%	3,566	97.6%	2,477	95.9%
10月	11,130	95.4%	3,676	95.1%	2,738	101.9%
11月	7,400	113.1%	3,640	98.4%	2,955	102.1%
12月	7,190	104.7%	3,686	100.5%	3,657	99.0%
平成25年1月	4,550	99.3%	3,572	101.9%	2,695	95.5%
2月	5,060	98.3%	3,625	96.8%	2,665	98.7%
3月	6,030	103.8%	4,076	101.0%	2,965	102.6%
4月	5,980	100.8%	3,802	98.2%	2,752	97.2%
5月	5,920	97.2%	3,972	101.4%	2,816	94.3%
6月	5,900	102.6%	3,929	105.0%	3,365	107.4%
7月	5,550	99.8%	3,803	102.7%	3,363	94.5%
8月	5,770	96.3%	3,607	96.5%	3,164	105.6%
9月	8,540	103.9%	3,536	99.2%	2,391	96.5%
10月	9,060	81.4%	3,721	101.2%	2,722	99.4%
11月	6,750	91.2%	3,672	100.9%	2,940	99.5%
12月	6,240	86.8%	3,620	98.2%	3,696	101.1%
1月	4,150	91.2%	3,427	95.9%	2,767	102.7%

資料：総務省「家計調査」

注：1 二人以上の世帯の数値である。

2 平成20年から平成24年については、年間の購入数量を示す。

3 精米ベースである。

(5) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

（上段：対前年同月比、下段：実数（精米g/人））

	平成24年4月		平成24年5月		平成24年6月		平成24年7月		平成24年8月		平成24年9月	
	対前年同月比	内訳	対前年同月比	内訳	対前年同月比	内訳	対前年同月比	内訳	対前年同月比	内訳	対前年同月比	内訳
合計	▲0.7%	5,395	▲0.04%	5,104	+1.8%	5,135	+2.3%	4,788	▲1.3%	4,629	▲0.4%	4,820
家庭内	+3.0%	3,642	+0.4%	3,391	+1.2%	3,446	+4.0%	3,170	+2.3%	3,126	+1.5%	3,285
中・外食	▲7.6%	1,754	▲0.9%	1,713	+3.1%	1,690	▲1.0%	1,618	▲8.1%	1,504	▲4.2%	1,535
中食	▲12.3%	1,010	▲5.1%	988	+5.4%	1,004	+3.2%	942	▲7.1%	851	▲3.0%	882
外食	▲0.3%	744	+5.4%	725	+0.0%	686	▲6.4%	676	▲9.4%	652	▲5.8%	653
	平成24年10月		平成24年11月		平成24年12月		平成25年1月		平成25年2月		平成25年3月	
合計	+3.1%	4,931	+1.2%	4,916	+6.9%	4,914	+1.8%	4,746	+4.7%	4,866	▲1.8%	4,664
家庭内	+5.9%	3,420	+4.8%	3,406	+13.5%	3,384	+7.2%	3,318	+8.4%	3,431	+1.1%	3,195
中・外食	▲2.8%	1,511	▲5.9%	1,510	▲5.2%	1,530	▲8.8%	1,429	▲3.2%	1,435	▲7.5%	1,469
中食	▲2.1%	873	▲5.1%	857	▲1.5%	877	▲1.5%	836	+1.6%	847	▲7.1%	827
外食	▲3.6%	638	▲7.1%	652	▲9.7%	654	▲17.5%	592	▲9.2%	589	▲8.0%	642
	平成25年4月		平成25年5月		平成25年6月		平成25年7月		平成25年8月		平成25年9月	
合計	▲11.4%	4,779	▲10.4%	4,574	▲10.9%	4,575	▲8.7%	4,373	▲8.6%	4,233	▲8.7%	4,400
家庭内	▲13.0%	3,169	▲9.0%	3,086	▲11.5%	3,048	▲8.9%	2,889	▲11.1%	2,779	▲9.0%	2,990
中・外食	▲8.2%	1,610	▲13.1%	1,489	▲9.6%	1,527	▲8.2%	1,485	▲3.3%	1,454	▲8.2%	1,409
中食	▲7.8%	931	▲10.8%	881	▲11.1%	893	▲8.4%	863	▲6.2%	798	▲7.9%	812
外食	▲8.7%	679	▲16.1%	608	▲7.6%	634	▲8.0%	622	+0.6%	656	▲8.4%	598
	平成25年10月		平成25年11月		平成25年12月		平成26年1月					
合計	▲8.2%	4,528	▲9.6%	4,443	▲11.2%	4,363	▲7.4%	4,396				
家庭内	▲10.9%	3,048	▲12.7%	2,972	▲15.4%	2,863	▲10.3%	2,977				
中・外食	▲2.0%	1,481	▲2.6%	1,471	▲2.0%	1,500	▲0.7%	1,419				
中食	▲0.8%	866	▲3.3%	829	▲3.1%	850	▲1.6%	823				
外食	▲3.6%	615	▲1.4%	643	▲0.8%	649	+0.7%	596				

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成24年4月及び5月の対前年同月比については、平成23年4月分及び5月分の暫定値（東日本大震災のため東北6県及び茨城県を調査対象外）との比較。

2 26年1月分の有効調査世帯数は2,686。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握。家庭外消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯類の概量から推計。

4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

② 精米購入時の動向

(ア) 入手経路(複数回答)

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	(生協・店舗・共同購入含む)	(農協・店舗・共同購入含む)	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	家族・知人などから無償で入手	その他
平成23年度	0.7	45.9	3.7	4.2	0.4	8.6	1.4	3.8	1.3	6.8	6.4	23.5	2.2
平成24年度	1.0	45.1	4.3	3.4	0.3	7.8	1.8	4.2	1.8	7.0	7.4	22.9	2.0
平成25年4月	0.7	49.0	4.4	3.2	0.1	7.7	1.5	3.4	1.6	6.7	8.1	17.5	3.0
5月	0.7	49.2	4.2	2.7	0.5	7.0	1.4	4.9	1.8	5.9	10.3	17.7	1.5
6月	0.6	50.5	4.0	2.2	0.4	8.3	1.6	4.1	1.9	6.3	9.2	17.6	1.6
7月	0.8	49.1	4.6	3.8	0.5	7.6	1.9	5.1	1.3	5.8	9.4	17.9	0.9
8月	0.7	48.5	3.3	2.1	0.4	7.6	1.8	4.6	1.9	6.5	8.0	21.0	1.1
9月	0.5	49.4	4.0	2.1	0.3	6.3	1.7	4.5	1.5	6.4	9.3	22.7	1.6
10月	0.8	44.7	2.6	2.1	0.1	6.6	1.3	3.3	2.0	7.5	10.9	26.4	1.9
11月	0.5	42.8	3.5	2.8	0.2	5.9	1.5	3.3	3.0	8.0	11.2	24.6	2.2
12月	1.1	45.6	3.2	2.2	0.5	7.3	1.4	3.3	2.0	7.1	9.5	23.3	2.0
平成26年1月	0.6	45.5	3.2	2.7	0.3	6.3	1.7	3.2	1.4	7.2	10.5	23.0	0.8

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成23・24年度は各年4月から翌年3月までの平均値。

2 26年1月分の有効調査世帯数は1692。

(イ) 入手経路別の購入数量

	25年4月(n=1373)		25年5月(n=1452)		25年6月(n=1665)		25年7月(n=1630)					
	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量			
デパート	55	0.4	5.9	45	0.3	4.4	112	0.7	10.7	76	0.5	6.1
スーパーマーケット	5,104	38.2	7.6	5,586	37.8	7.8	6,478	39.2	7.7	6,372	38.8	8.0
ドラッグストア	447	3.4	7.3	415	2.8	6.8	500	3.0	7.5	560	3.4	7.5
ディスカウントストア	370	2.8	8.3	309	2.1	7.8	259	1.6	7.0	524	3.2	8.6
コンビニエンスストア	13	0.1	6.5	29	0.2	4.1	19	0.1	3.0	36	0.2	4.8
生協(店舗・共同購入含む)	746	5.6	7.0	790	5.3	7.8	1,106	6.7	8.0	1,046	6.4	8.4
農協(店舗・共同購入含む)	257	1.9	12.2	280	1.9	13.4	364	2.2	13.4	451	2.7	14.2
米穀専門店	498	3.7	10.7	688	4.7	9.6	661	4.0	9.7	838	5.1	10.0
産地直売所	194	1.5	8.8	251	1.7	9.4	265	1.6	8.2	167	1.0	7.8
生産者から直接購入	1,892	14.2	20.6	1,635	11.1	19.0	2,209	13.3	21.2	1,769	10.8	18.6
インターネットショップ	1,299	9.7	11.7	1,790	12.1	12.0	1,697	10.3	11.1	1,602	9.7	10.5
家族・知人などから無償で入手	2,469	18.5	10.3	2,959	20.0	11.5	2,877	17.4	9.8	2,994	18.2	10.3

	25年8月(n=1573)		25年9月(n=1568)		25年10月(n=1785)		25年11月(n=1635)					
	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量			
デパート	85	0.5	8.3	62	0.4	7.2	127	0.7	9.3	48	0.3	5.9
スーパーマーケット	6,161	38.1	8.1	6,079	37.7	7.9	6,396	33.8	8.0	5,676	33.4	8.1
ドラッグストア	417	2.6	8.0	456	2.8	7.2	398	2.1	8.7	418	2.5	7.3
ディスカウントストア	332	2.1	10.0	294	1.8	9.1	296	1.6	7.8	469	2.8	10.3
コンビニエンスストア	15	0.1	2.4	4	0.02	0.9	12	0.1	4.4	16	0.1	5.4
生協(店舗・共同購入含む)	934	5.8	7.9	845	5.2	8.5	847	4.5	7.1	755	4.4	7.8
農協(店舗・共同購入含む)	322	2.0	11.6	269	1.7	10.0	291	1.5	12.3	285	1.7	11.6
米穀専門店	689	4.3	9.5	755	4.7	10.8	529	2.8	9.0	567	3.3	10.7
産地直売所	285	1.8	9.5	178	1.1	7.5	285	1.5	8.0	482	2.8	9.8
生産者から直接購入	2,143	13.3	20.9	2,209	13.7	22.1	2,920	15.5	21.8	2,305	13.6	17.6
インターネットショップ	1,446	9.0	11.5	1,544	9.6	10.6	2,091	11.1	10.7	1,875	11.0	10.3
家族・知人などから無償で入手	3,323	20.6	10.1	3,426	21.3	9.6	4,702	24.9	10.0	4,112	24.2	10.2

	25年12月(n=1508)		26年1月(n=1692)			
	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量
デパート	92	0.6	5.6	72	0.4	6.8
スーパーマーケット	5,670	36.8	8.3	5,860	35.3	7.6
ドラッグストア	456	3.0	9.4	394	2.4	7.3
ディスカウントストア	356	2.3	10.9	417	2.5	9.1
コンビニエンスストア	27	0.2	3.9	25	0.1	5.3
生協(店舗・共同購入含む)	872	5.7	7.9	860	5.2	8.0
農協(店舗・共同購入含む)	236	1.5	11.0	281	1.7	10.1
米穀専門店	458	3.0	9.1	539	3.2	9.8
産地直売所	316	2.0	10.4	224	1.4	9.8
生産者から直接購入	1,943	12.6	18.1	2,260	13.6	18.6
インターネットショップ	1,479	9.6	10.3	1,672	10.1	9.4
家族・知人などから無償で入手	3,502	22.7	10.0	3,981	24.0	10.2

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：世帯平均購入数量は、精米を購入した世帯の平均購入数量である。

(ウ) 重視する点(複数回答)

(%)

	産地	品種	年産	価格	(食味 おいしさ)	適量感	安全性	無洗米	精米年月日	栽培方法	製造販売事業者	販売店	その他
平成23年度	49.8	51.4	36.6	77.8	48.8	9.0	31.1	-	27.4	4.5	7.7	4.6	5.0
平成24年度	53.8	51.4	36.8	74.5	49.0	9.0	32.4	11.4	23.9	5.2	8	4.6	2.5
平成25年4月	54.8	52.3	32.8	77.1	45.2	9.0	31.1	12.8	23.1	4.0	7.3	3.7	3.1
5月	54.1	53.7	34.3	75.2	46.5	8.1	32.1	11.9	22.3	3.9	6.0	3.5	2.3
6月	54.5	53.7	33.9	76.2	47.7	9.2	29.3	12.3	23.3	3.4	6.7	3.7	2.4
7月	55.4	52.7	35.0	77.6	47.6	8.2	31.8	11.5	22.5	3.8	8.0	4.2	1.5
8月	57.4	54.2	36.0	76.3	44.5	7.4	32.8	10.6	22.2	4.0	7.8	3.4	1.9
9月	58.8	53.4	38.5	77.1	46.9	8.4	30.6	11.9	25.4	4.6	8.0	2.8	1.8
10月	59.3	55.1	40.4	76.0	47.7	8.2	30.7	11.8	23.7	4.6	9.1	4.5	2.3
11月	57.4	54.0	41.3	76.5	48.5	8.5	32.5	11.0	25.5	4.7	7.9	4.7	2.1
12月	57.2	56.6	42.3	76.6	48.3	9.6	32.4	11.3	24.6	5.7	8.1	4.6	1.6
平成26年1月	56.4	53.2	41.5	76.2	48.3	8.6	33.2	12.7	24.7	5.0	10.0	4.6	2.3

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成23・24年度は各年4月から翌年3月までの平均値。

2 「無洗米」は平成24年度から選択肢に加えた。

3 26年1月分の有効調査世帯数は2533。

(エ) 家庭内の月末在庫数量

(kg/世帯)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
23年度	月末在庫数量	6.8	7.0	7.0	6.7	6.9	6.9	8.3	7.9	8.3	7.6	7.5	7.2
	平均世帯人員	2.51	2.51	2.54	2.53	2.54	2.53	2.53	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54
24年度	月末在庫数量	6.1	6.1	6.3	6.2	6.1	6.5	7.3	7.2	7.4	7.1	6.8	6.8
	平均世帯人員	2.42	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41
25年度	月末在庫数量	6.4	6.3	6.3	6.2	6.4	6.6	7.1	7.1	7.2	6.8		
	平均世帯人員	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.40	2.41	2.41	2.41		

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：平均世帯人員は、各月の有効調査世帯の平均人員数である。

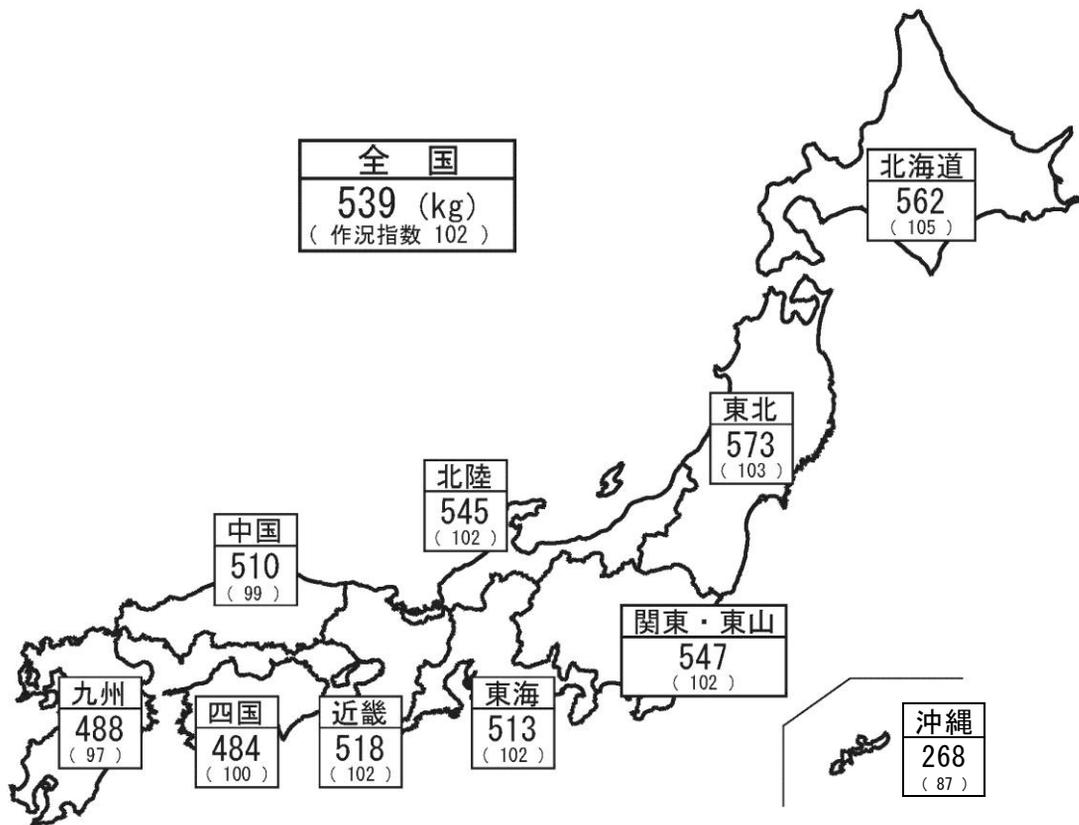
IV 生産段階の動向

(1) 平成25年産水陸稲の収穫量

【調査結果の概要】

- 1 平成25年産水稲の作柄は、全もみ数が総じてやや多いないし平年並みとなり、登熟はウンカ等病虫害の影響等があった中国、四国及び九州を除きおおむね順調に推移したことから、全国の10 a 当たり収量は539kg (作況指数102)、収穫量 (子実用) は860万3,000 t (前年産対比101%)と見込まれる。
また、主食用作付面積に10 a 当たり収量を乗じた収穫量 (主食用) は、818万2,000 tと見込まれる。
- 2 平成25年産陸稲の作付面積 (子実用) は1,720ha (前年産対比82%) で、収穫量 (子実用) は4,290 t (同118%) となった。

図1 平成25年産水稲の全国農業地域別10a当たり収量



- 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率である。
- 作付面積 (子実用) とは、青刈り用等面積 (飼料用米等を含む。) を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稲作付面積 (子実用) から、備蓄米、加工用米、米粉用米等の作付面積を除いた面積である。

- 平成25年産水陸稲の収穫量は「農林水産統計」からの抜粋。詳しくは、下記にて御覧いただけます。
農林水産省ホーム > 組織・政策 > 統計情報 【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

【調査結果（水稻）】

- 1 平成25年産水稻の地域別の作柄は、北海道では、全もみ数がやや少なかったものの、登熟が平年を上回って推移したことから、10 a 当たり収量は562kg（作況指数105）となった。

東北から近畿では、生育期間を通しておおむね天候に恵まれ、全もみ数が総じて平年並みないしやや多く、登熟もおおむね順調に推移したことから、東北は10 a 当たり収量は573kg（同103）、北陸は545kg（同102）、関東・東山は547kg（同102）、東海は513kg（同102）、近畿は518kg（同102）となった。

中国から九州では、全もみ数は平年並みに確保された地域が多かったものの、ウンカ等の病虫害の被害が広範囲に発生したことや登熟期間の高温の影響等で登熟が平年を下回ったことから、中国は10 a 当たり収量は510kg（同99）、四国は484kg（同100）、九州は488kg（同97）となった。

沖縄県は、低温・日照不足、台風の影響等により268kg（同87）となった。

この結果、全国の10 a 当たり収量は539kg（同102）が見込まれる。

- 2 以上の結果、収穫量（子実用）は860万3,000 tが見込まれる。

また、主食用作付面積に10 a 当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は818万2,000 tが見込まれる。

表 1 平成25年産水稻の収穫量（全国農業地域別）

	作付面積 (子実用) ①	10 a 当たり 収 量 ②	収 穫 量 (子実用) ③=①×②	10 a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤=②/④	参 考	
						主食用 作付面積 ⑥	収 穫 量 (主食用) ⑦=⑥×②
	ha	kg	t	kg		ha	t
全 国	1,597,000	539	8,603,000	530	102	1,522,000	8,182,000
北 海 道	112,000	562	629,400	535	105	107,000	601,300
東 北	406,200	573	2,328,000	559	103	376,000	2,153,000
北 陸	212,700	545	1,160,000	533	102	193,900	1,058,000
関 東・東 山	298,900	547	1,635,000	534	102	287,200	1,571,000
東 海	102,300	513	524,800	503	102	100,200	513,900
近 畿	109,400	518	567,200	509	102	106,900	554,000
中 国	115,200	510	587,600	517	99	112,900	575,600
四 国	56,400	484	273,000	484	100	55,700	269,500
九 州	183,500	488	895,700	503	97	180,900	882,900
沖 縄	890	268	2,390	309	87	890	2,390

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用等面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（子実用）から、備蓄米、加工用米、米粉用米等の作付面積を除いた面積である。

3 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

図2 全国・都道府県別作況指数

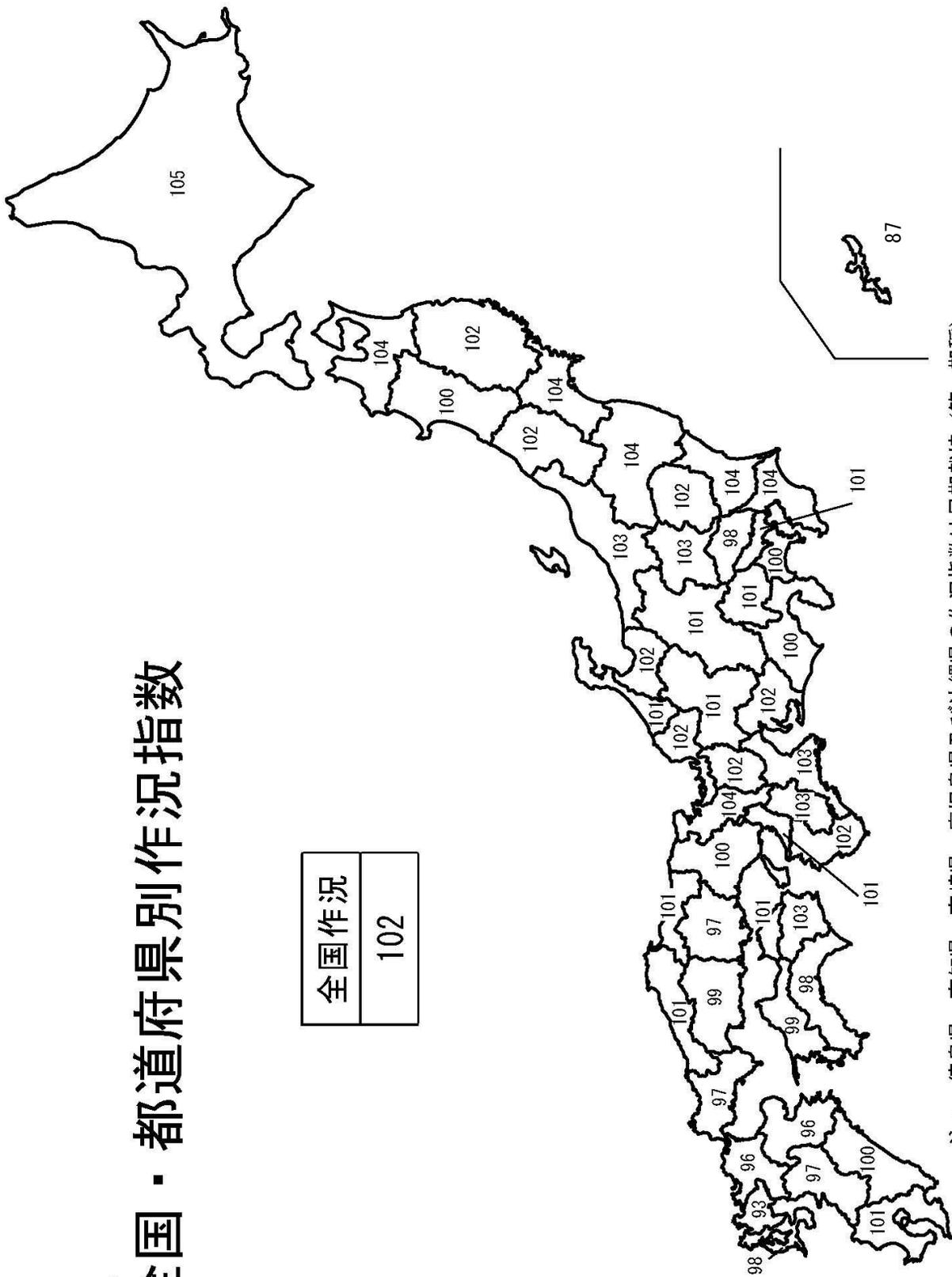


表2 平成25年産水稻の収穫量

	作付面積 (子実用) ①	10a当たり 収 量 ②	収 穫 量 (子実用) ③=①×②	10a当たり 平年収量 ④	作 況 指 数 ⑤=②/④	参 考	
						主食用 作付面積 ⑥	収 穫 量 (主 食 用) ⑦=⑥×②
	ha	kg	t	kg		ha	t
全 国	1,597,000	539	8,603,000	530	102	1,522,000	8,182,000
北海道	112,000	562	629,400	535	105	107,000	601,300
青森	49,600	610	302,600	584	104	44,600	272,100
岩手	55,400	542	300,300	533	102	53,100	287,800
宮城	72,200	552	398,500	530	104	70,400	388,600
秋田	92,500	572	529,100	573	100	78,700	450,200
山形	68,300	608	415,300	594	102	63,500	386,100
福島	68,200	561	382,600	537	104	65,700	368,600
茨城	75,900	542	411,400	522	104	73,600	398,900
栃木	66,200	549	363,400	540	102	61,000	334,900
群馬	17,600	509	89,600	494	103	16,500	84,000
埼玉	35,400	481	170,300	490	98	34,500	165,900
千葉	60,900	554	337,400	533	104	59,400	329,100
東京	161	415	668	411	101	161	668
神奈川	3,150	495	15,600	493	100	3,150	15,600
新潟	119,700	555	664,300	539	103	107,100	594,400
富山	39,700	546	216,800	537	102	36,300	198,200
石川	26,700	522	139,400	519	101	25,000	130,500
福井	26,500	526	139,400	517	102	25,600	134,700
山梨	5,260	551	29,000	547	101	5,210	28,700
長野	34,400	632	217,400	623	101	33,700	213,000
岐阜	24,700	495	122,300	488	101	24,300	120,300
静岡	17,100	521	89,100	521	100	16,900	88,000
愛知	30,300	519	157,300	507	102	29,500	153,100
三重	30,200	517	156,100	500	103	29,500	152,500
滋賀	33,400	529	176,700	518	102	32,000	169,300
京都	15,500	530	82,200	511	104	15,300	81,100
大阪	5,640	502	28,300	495	101	5,630	28,300
兵庫	38,400	506	194,300	504	100	37,500	189,800
奈良	9,190	527	48,400	513	103	9,150	48,200
和歌山	7,380	506	37,300	495	102	7,380	37,300
鳥取	14,100	519	73,200	514	101	13,800	71,600
島根	19,100	514	98,200	509	101	18,800	96,600
岡山	33,100	512	169,500	526	97	32,000	163,800
広島	26,000	520	135,200	523	99	25,500	132,600
山口	22,900	487	111,500	504	97	22,800	111,000
徳島	13,400	487	65,300	474	103	13,100	63,800
早期栽培	5,290	468	24,800	463	101
普通栽培	8,130	499	40,600	480	104
香川	14,700	503	73,900	499	101	14,500	72,900
愛媛	15,300	493	75,400	498	99	15,200	74,900
高知	13,000	449	58,400	460	98	12,900	57,900
早期栽培	7,650	473	36,200	481	98
普通栽培	5,360	414	22,200	430	96
福岡	38,700	479	185,400	499	96	38,100	182,500
佐賀	26,700	489	130,600	525	93	26,400	129,100
長崎	13,500	468	63,200	478	98	13,500	63,200
熊本	38,400	502	192,800	515	97	37,500	188,300
大分	23,800	484	115,200	503	96	23,700	114,700
宮崎	18,900	495	93,600	497	100	18,700	92,600
早期栽培	8,000	476	38,100	480	99
普通栽培	10,900	509	55,500	511	100
鹿児島	23,500	489	114,900	483	101	23,000	112,500
早期栽培	5,490	461	25,300	443	104
普通栽培	18,000	497	89,500	495	100
沖縄	890	268	2,390	309	87	890	2,390
第一期稲	596	332	1,980	370	90
第二期稲	294	137	403	180	76

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用等面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
 2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（子実用）から、備蓄米、加工用米、米粉用米等の作付面積を除いた面積である。
 3 全国の収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

(2) 国産米(水稲)の作況・収穫量

年産	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収 量 kg	収 穫 量 (子実用) t	(参考)				作況 指数
				主 食 用 作付面積 ha	収 穫 量 (主食用) t	10a当たり 平年収量 kg	生産数量 目標 t	
18	1,684,000	507	8,546,000	529	8,330,000	96
19	1,669,000	522	8,705,000	529	8,280,000	99
20	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	530	8,150,000	102
21	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	530	8,150,000	98
22	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	530	8,130,000	98
23	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	530	7,950,000	101
24	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	530	7,930,000	102
25	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	530	7,910,000	102

出典： 農林水産省統計部「統計情報」

注： 1 作付面積(子実用)とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

2 主食用作付面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む。)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積である。

3 「…」は、事実不詳又は調査を欠くものであることを示す。

(3) 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量(子実用)及び10a当たり収量

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位(整粒歩合45%)以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

① ふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区 分 年 産	合 計	ふるい目幅別重量割合					
		2.00mm 以 上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
17年産	100.0	71.2	20.5	3.6	2.3	1.4	1.0
18年産	100.0	72.9	19.2	3.5	2.2	1.3	0.9
19年産	100.0	75.5	17.9	3.0	1.8	1.1	0.7
20年産	100.0	76.2	16.5	3.0	2.1	1.3	0.9
21年産	100.0	75.2	17.4	3.2	2.1	1.3	0.8
22年産	100.0	81.3	13.2	2.3	1.6	1.0	0.6
23年産	100.0	75.8	16.6	3.1	2.2	1.4	0.9
24年産	100.0	81.7	13.0	2.2	1.5	1.0	0.6
25年産	100.0	78.8	14.5	2.7	1.9	1.3	0.8

資料： 農林水産省統計部「統計情報」

注： 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

② 選別ふるい目幅別収穫量(子実用)及び10a当たり収量

(単位：kg(10a当たり収量)、トン(収穫量))

年産	区分	選別ふるい目幅別収穫量及び10a当たり収量					
		1.70mm 選別	1.75mm 選別	1.80mm 選別	1.85mm 選別	1.90mm 選別	2.00mm 選別
17年産	10a当たり収量	532	527	519	507	488	379
18年産		507	502	496	485	467	370
19年産		522	518	513	503	488	394
20年産		543	538	531	520	503	414
21年産		522	518	511	500	483	393
22年産		522	519	514	505	493	424
23年産		533	528	521	509	492	404
24年産		10a当たり収量	540	537	531	523	511
	収 穫 量	8,519,000	8,468,000	8,383,000	8,255,000	8,067,000	6,960,000
25年産	10a当たり収量	539	535	528	517	503	425
	収 穫 量	8,603,000	8,534,000	8,422,000	8,259,000	8,027,000	6,779,000

資料： 農林水産省統計部「統計情報」

- 注： 1 選別ふるい目幅別の収穫量とは、全国の予想収穫量に選別ふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。
 2 選別ふるい目幅別の10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことである。
 3 ふるい目幅別の収穫量については、平成24年産より集計・公表を行っている。

(4) 加工用米及び新規需要米の取組状況

① 加工用米の生産量

(単位:トン)

	うるち米	もち米	合計	流通	
				全国流通	地域流通
平成16年産	117,837	4,404	122,241	121,719	522
17年産	123,996	4,738	128,734	127,160	1,574
18年産	140,596	7,996	148,592	146,529	2,064
19年産	152,145	10,659	162,804	160,670	2,134
20年産	138,895	10,154	149,048	142,803	6,246
21年産	134,389	6,779	141,168	122,771	18,397
22年産	190,883	21,945	212,829	134,958	77,870
23年産	122,699	31,856	154,555	46,087	108,468
24年産	148,695	32,190	180,885	65,821	115,064
25年産	179,737	29,769	209,506	83,466	126,040

資料：農林水産省「加工用米生産量」

- 注：1 平成24年産までは「米穀の需給調整実施要領」の規定により報告された生産集出荷数量。平成25年産は、取組計画の認定を受けた生産予定数量（平成25年10月15日現在）。
- 2 全国流通の値は、生産集出荷数量等のうち、取組主体が全国生産出荷団体であるものの合計値。
- 3 地域流通の値は、生産集出荷数量等のうち、取組主体が都道府県出荷団体、認定方針作成者及び農業者であるものの合計値。
- 4 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

② 新規需要米の用途別認定状況

(単位:トン、ha)

用途区分	平成20年産		平成21年産		平成22年産		平成23年産		平成24年産		平成25年産	
	計画生産量	作付面積	計画生産量	作付面積	計画生産量	作付面積	計画生産量	作付面積	計画生産量	作付面積	計画生産量	作付面積
米粉用米	566	108	13,041	2,401	27,796	4,957	40,311	7,324	34,521	6,437	21,071	3,965
飼料用米	8,020	1,410	23,264	4,123	81,237	14,883	183,033	33,955	183,431	34,525	115,350	21,802
WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)	—	9,089	—	10,203	—	15,939	—	23,086	—	25,672	—	26,600
バイオエタノール用米	2,426	303	2,314	295	2,940	397	2,998	415	2,793	450	2,594	414
輸出用米	391	74	926	164	2,184	388	1,626	287	2,524	454	2,825	507
その他 (わら専用稲、青刈り用稲等)	982	1,330	1,108	956	694	508	852	501	857	553	659	457
合計	12,386	12,314	40,654	18,142	114,851	37,072	228,820	65,569	224,127	68,091	142,499	53,744

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」

- 注：1 WCS用稲、わら専用、青刈り用稲については子実を採らない用途であるため計画生産量はなし。
- 2 平成25年産は、需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成25年10月15日現在の値。
- 3 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(5) 水稲うるち玄米の検査結果

① 検査数量及び等級比率(年産別)

(単位:トン、%)

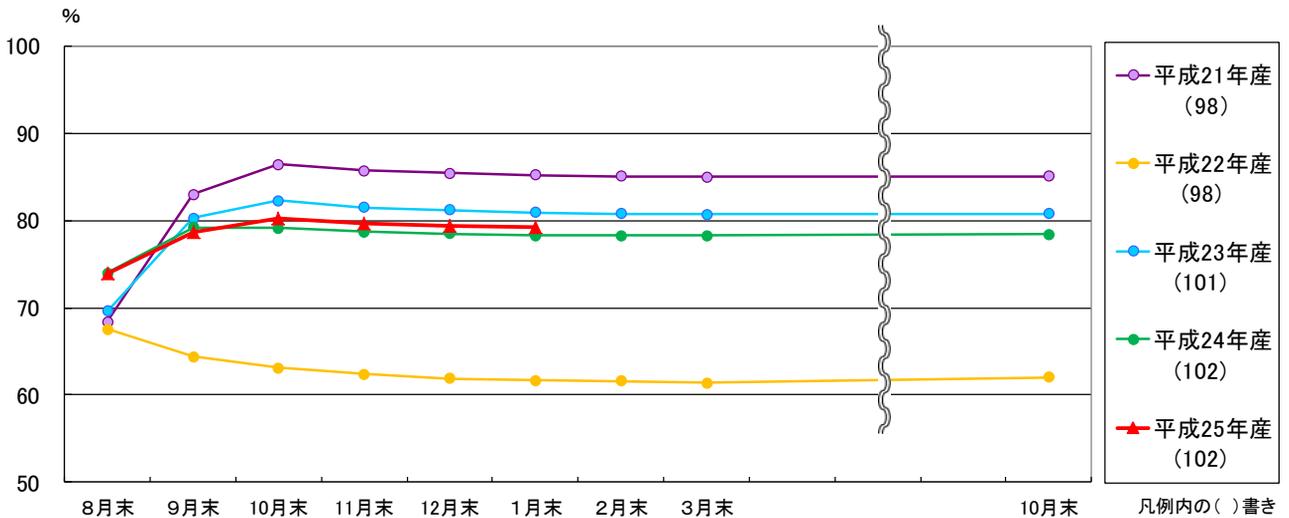
年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
17	5,047,547	3,788,571	1,000,515	168,455	90,006	75.1	19.8	3.3	1.8
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,043,188	3,955,677	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25 ※	4,536,777	3,593,979	798,749	82,925	61,124	79.2	17.6	1.8	1.3

資料： 農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 ※の25年産については、平成26年1月31日現在（速報値）。

② 水稲うるち玄米の1等比率の推移



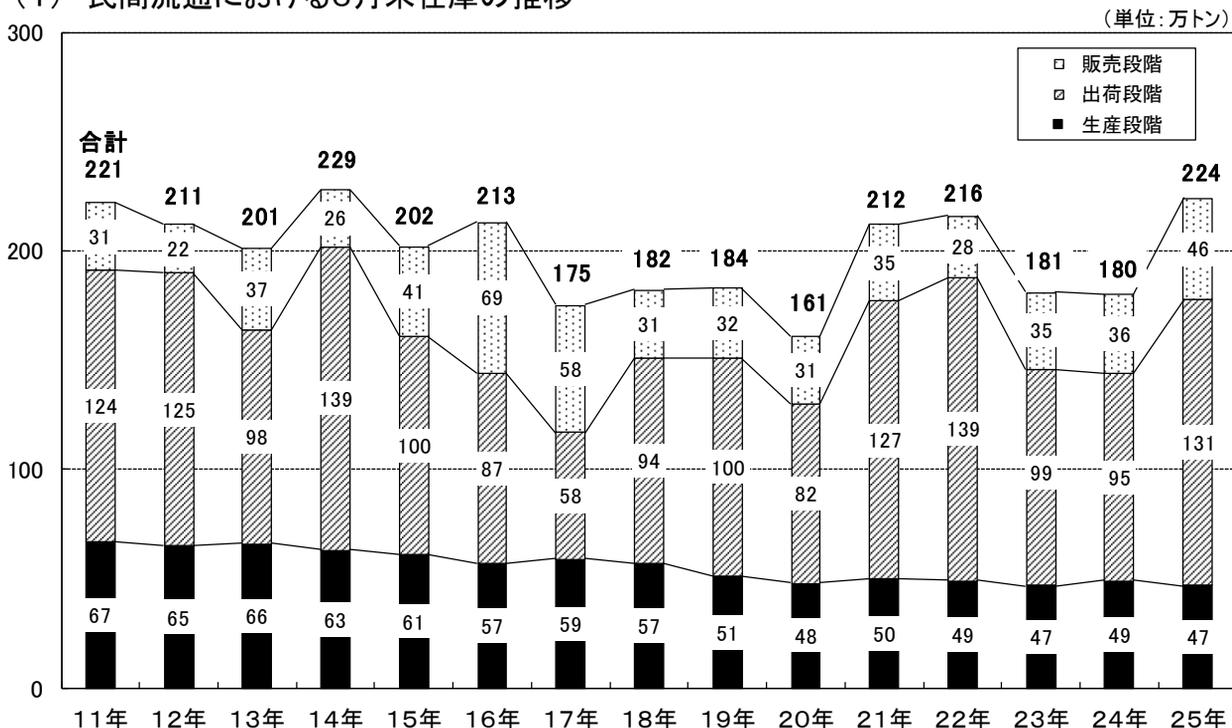
資料： 農林水産省とりまとめ

注：1 「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 23年産からの1等比率については、4月以降の変動が軽微なため、生産年の翌年4~9月末時点の公表は行っていない。

V 主食用米等の需給見通し（平成25年11月の米の基本指針（平成25年11月28日））

(1) 民間流通における6月末在庫の推移

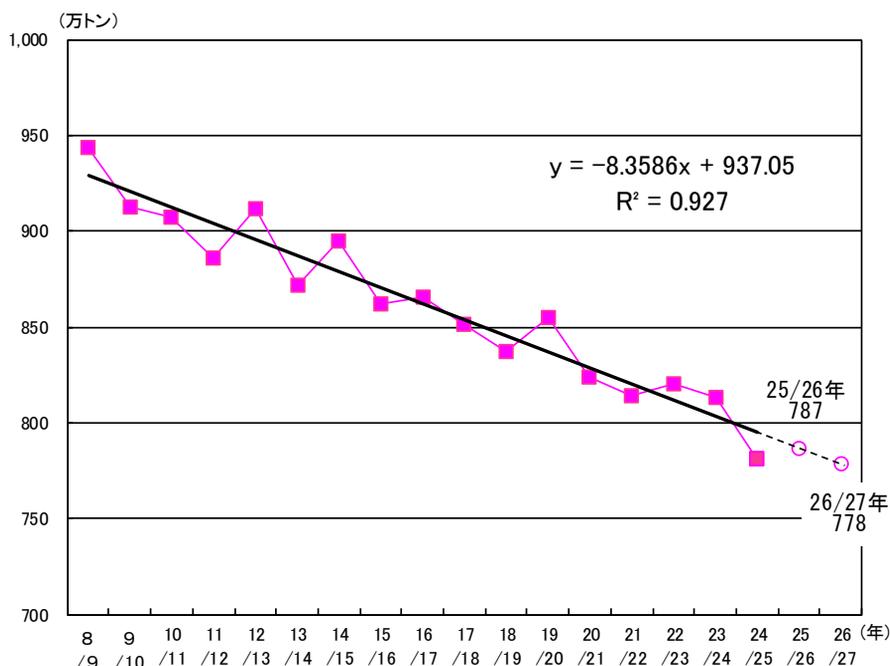


注: 1 うるち玄米及びもち玄米の値である。
 2 各年の民間在庫量において、
 ① 平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者（販売・出荷段階）の数量である。
 ② 平成15年については、販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量、出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。
 ③ 平成14年以前については推計値であり、販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量（推計）を加えた数量、出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量（推計）を加えた数量である。
 なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」（平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」）を基に算出した在庫量から精米在庫量（推計）を控除した玄米在庫量である。
 3 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(2) 主食用米等の需要実績の推移

(単位: 万トン)

年	x	需要量(y)
8 / 9	1	943.8
9 / 10	2	912.9
10 / 11	3	907.3
11 / 12	4	885.9
12 / 13	5	911.5
13 / 14	6	872.1
14 / 15	7	894.7
15 / 16	8	861.6
16 / 17	9	865.4
17 / 18	10	851.7
18 / 19	11	837.5
19 / 20	12	854.5
20 / 21	13	823.6
21 / 22	14	814.1
22 / 23	15	820.0
23 / 24	16	813.3
24 / 25	17	781.1
25 / 26	18	786.6 (推計値)
26 / 27	19	778.2 (推計値)



(3) 平成25年7月から平成26年6月の主食用米等の需給見通し(推計)

表 平成25/26年の主食用米等の需給見通し

(単位:万トン)

		主食用米等
平成25年6月末民間在庫量	A	224
平成25年産主食用米等生産量	B	818
平成25/26年主食用米等供給量計	$C = A + B$	1,042
平成25/26年主食用米等需要量	D	787
平成26年6月末民間在庫量	$E = C - D$	255

※ 平成25/26年においては、需給事情から見て、販売の見込みが立たなくなった主食用米が、需要が期待できる加工用、飼料用等に販売されることが想定される。

注:「25/26年」とは、平成25年7月から平成26年6月までの1年間。

(4) 平成26年産米の生産数量目標(全国)

表 直近7年の生産数量目標の推移

(単位:万トン)

年産	20	21	22	23	24	25	26
生産数量目標	815	815	813	795	793	791	765
前年比	▲ 13	±0	▲ 2	▲ 18	▲ 2	▲ 2	▲ 26

【参 考】

米穀の需給に関する詳細は、「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」に掲載しています。

(<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/130726/index.html>)

農林水産省ホーム > 組織・政策 > 審議会 > 食料・農業・農村政策審議会 > 食糧部会 > 食料・農業・農村政策審議会食糧部会 資料 (25年11月28日開催)

VI 備蓄米及びMA米の動向

(1) 国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量

① 平成26年産政府備蓄米の都道府県別優先枠及び買入札の結果

(単位:トン)

買入対象米穀の産地	都道府県別優先枠	買入札の結果				落札数量計
		落札数量				
		第1回 (平成26年1月28日実施)	第2回 (平成26年2月12日実施)	第3回 (平成26年2月25日実施)		
北海道	14,080	1,010	13,070	0	14,080	
青森	20,450	20,450	0	0	20,450	
岩手	8,000	8,000	0	0	8,000	
宮城	11,000	11,000	0	0	11,000	
秋田	25,500	25,500	0	0	25,500	
山形	13,530	13,530	0	0	13,530	
福島	20,000	20,000	0	0	20,000	
茨城	1,480	425	971	84	1,480	
栃木	11,170	11,170	0	0	11,170	
群馬						
埼玉	640	640	0	0	640	
千葉	2,830	410	2,380	40	2,830	
東京						
神奈川						
新潟	32,400	32,400	0	0	32,400	
富山	12,840	153	12,687	0	12,840	
石川	4,020	4,020	0	0	4,020	
福井	640	640	0	0	640	
山梨						
長野	770	770	0	0	770	
岐阜	740	0	740	0	740	
静岡	100	0	73	27	100	
愛知	1,810	0	600	0	600	
三重	810	0	810	0	810	
滋賀	1,600	1,600	0	0	1,600	
京都						
大阪						
兵庫	560	286	149	0	435	
奈良	30	0	0	0	0	
和歌山						
鳥取	1,320	0	1,320	0	1,320	
島根	100	0	100	0	100	
岡山	3,170	485	2,685	0	3,170	
広島	1,010	12	0	998	1,010	
山口	340	0	0	340	340	
徳島	1,520	303	780	395	1,478	
香川	530	0	0	530	530	
愛媛	340	0	340	0	340	
高知	80	0	0	0	0	
福岡	460	0	364	20	384	
佐賀	830	0	0	830	830	
長崎	80	0	20	0	20	
熊本	590	0	590	0	590	
大分	240	0	240	0	240	
宮崎						
鹿児島						
沖縄						
都道府県別枠計	195,610	152,804	37,919	3,264	193,987	
指定なし	54,390	36,493	17,887	10	54,390	
合計	250,000	189,297	55,806	3,274	248,377	

② 平成23～25年産備蓄米の政府買入札の結果

(単位:トン)

買入対象米穀 の産地	25年産 県別 優先枠	25年産 落札 数量	24年産 県別 優先枠	24年産 落札 数量	23年産 県別 優先枠	23年産 落札 数量
北海道	21,000	14,058	7,860	5,768	7,000	7,000
青森	21,000	20,028	2,400	2,388		
岩手	10,000	7,600	5,680	5,149	6,700	5,683
宮城	10,000	7,428	5,700	3,952	5,900	0
秋田	30,000	25,411	13,230	9,595	11,300	11,274
山形	12,500	12,500	7,690	7,690	3,900	3,900
福島	40,000	11,074	1,320	52		
茨城	3,000	1,478	90	90		
栃木	14,730	11,163	2,500	1,848		
群馬						
埼玉	600	600				
千葉	5,000	2,650	100	99		
東京					100	0
神奈川						
新潟	31,000	30,948	10,120	9,614		
富山	13,000	12,831	7,920	7,920	6,200	6,200
石川	4,000	4,000	1,120	810		
福井	1,300	632	2,430	1,300		
山梨						
長野	2,000	758	100	93		
岐阜	1,500	735				
静岡	1,200	62				
愛知	2,000	1,803				
三重	860	807	700	699		
滋賀	3,000	1,572			1,200	0
京都	400					
大阪						
兵庫	1,200	554				
奈良	530	30				
和歌山						
鳥取	1,320	1,320				
島根	250	95				
岡山	3,100	2,974	180	150		
広島	1,560	1,002	1,020	603	2,100	1,017
山口	3,000	336	3,000	785	5,100	3,003
徳島	2,000	1,443				
香川	500	500	590	0	1,300	585
愛媛	1,000	336	420	345	1,000	422
高知	110	76				
福岡	1,300	454	120	120	1,300	120
佐賀	900	830	190	190	5,700	188
長崎	80	80				
熊本	1,000	583	60	0	500	0
大分	240	240			300	0
宮崎					500	0
鹿児島					700	0
沖縄						
都道府県別枠計		178,991		59,260		39,392
指定なし		4,101		24,130		28,246
合計		183,092		83,390		67,638

注：平成23年産県別優先枠のうち、宮城の5,900トンについては、震災により契約解除となっている。

③ 国内産備蓄米の売渡数量

最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況

(単位:千トン)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	1	0	0	0	0	0	—	—	—	—	3
23/24年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

資料：農林水産省「最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況」

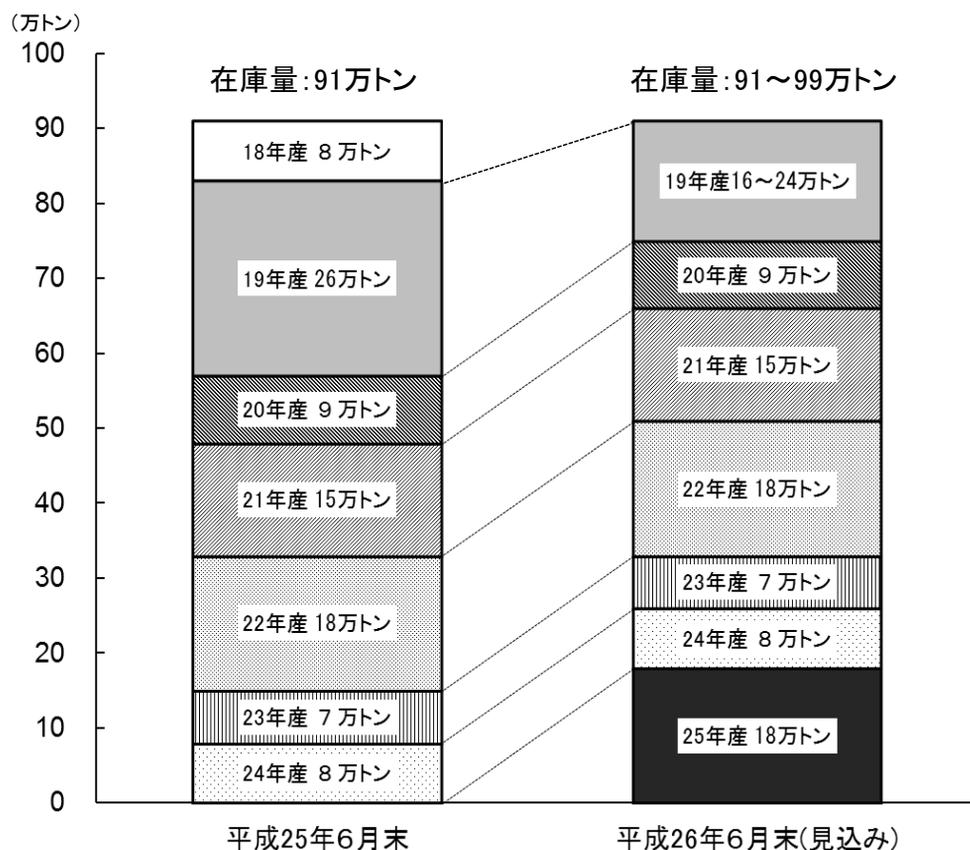
注：1 期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。

2 販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。（平成23年2月まで）

3 19/20年の11月・12月については緊急対策による販売停止以前に契約された分の引取数量であり、1～5月については矯正施設向けに販売し、引き取られた数量である。

4 平成23年1月をもって、政府所有国内産米穀（主食用）の販売入札（2月引取分まで）を終了している。

④ 政府備蓄米の在庫の状況



資料：農林水産省調べ

注：1 うるち玄米の数量である。

2 保有期間が5年を超える米の品質確認を行い、10～18万トンの範囲内で非主食用に販売することとしている。

(2) MA米（一般・SBS）の動向

① MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：万玄米トン）

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
米国	19	23	29	32	34	36	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15	15
中国	3	4	5	8	9	10	14	11	11
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10	9
その他	1	1	2	2	2	2	1	5	5
合計	43	51	60	68	72	77	77	77	76
（うち一般輸入）	42	49	54	55	59	63	66	71	65
（うちSBS輸入）※	1	2	6	12	12	12	10	5	10

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
米国	36	36	36	36	43	36	36	36	36
タイ	19	19	18	25	27	33	35	24	28
中国	10	9	8	8	7	7	2	6	5
オーストラリア	2	2	5	-	-	-	4	7	6
その他	10	11	10	1	0	1	0	4	1
合計	77	77	77	70	77	77	77	77	77
（うち一般輸入）	66	66	66	59	66	66	72	66	66
（うちSBS輸入）※	9	10	10	10	10	10	4	10	10

	平成25年度 （2月末現在）
米国	33
タイ	26
中国	0
オーストラリア	4
その他	1
合計	64
（うち一般輸入）	58
（うちSBS輸入）※	6

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」
※SBS輸入数量の単位は万実トン。

- 注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。
2 ラウンドの関係で合計が一致しないことがある。
3 実トンと玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

② 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成25年度)

(単位：トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成25年4～6月分	29,700	平成25年4～7月分	2,685
4月分	860	平成25年8～11月分	3,092
5月分	1,373	/	/
6月分	1,643		
7～9月分	32,028		
7月分	816		
8月分	1,219		
9月分	2,421		
10～12月分	30,951		
10月分	522		
11月分	994		
12月分	1,312		
小計	103,839		
合計	109,616		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

③ SBS輸入米の見積合わせ結果(平成25年度)

(単位：トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成25年9月25日)	一般米	2,722	936	548	72	0	94	1,230	0	5,602
	砕精米	0	180	300	108	216	0	1,696	0	2,500
第2回 (平成25年10月22日)	一般米	1,586	1,104	1,038	72	40	0	427	0	4,267
	砕精米	108	0	700	100	0	0	1,592	0	2,500
第3回 (平成25年12月4日)	一般米	1,799	538	480	0	0	0	4,626	0	7,443
	砕精米	0	208	760	100	216	0	1,216	0	2,500
第4回 (平成26年1月15日)	一般米	6,889	1,126	1,160	0	40	0	5,599	0	14,814
	砕精米	0	0	2,000	0	0	0	3,000	0	5,000
第5回 (平成26年2月13日)	一般米	1,156	656	120	0	0	0	4,541	0	6,473
	砕精米	468	0	1,515	0	108	0	2,909	0	5,000
第6回 (平成26年2月28日)	一般米	322	0	0	0	0	0	1,536	0	1,858
	砕精米	0	0	1,300	0	0	0	500	0	1,800
合計	一般米	14,474	4,360	3,346	144	80	94	17,959	0	40,457
	砕精米	576	388	6,575	308	540	0	10,913	0	19,300
平成22年度計 (参考)	一般米	2,904	2,228	1,880	120	2,936	0	538	0	10,606
	砕精米	16,438	640	9,010	0	532	0	0	0	26,620
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成22～25年度